

高等学校における道德教育の推進の在り方に関する研究 （第1次報告）

－中学校における指導内容を踏まえた取組－

人間としての在り方生き方を十分に考え、主体的に判断し行動できる生徒の育成に資することを目的として、高等学校における道德教育の在り方及び推進方法について3年間の研究を行うこととした。まず、各校で道德教育を計画する際の留意点を検討・整理し、『高等学校における道德教育推進のための一問一答集』を作成した。さらに、道德教育指導参考資料『明日を拓く－人間としての在り方生き方を求めて－』（愛知県教育委員会発行）を活用した国語科と家庭科の授業実践を通して、教科における道德教育の考え方を示すことができた。

<検索用キーワード> 高等学校 学習指導要領 生きる力 在り方生き方
道德教育 道德の時間 全体計画 道德的実践力

指導・助言

名城大学人間学部教授

宮嶋 秀光

研究会委員

県立鳴海高等学校教諭

豊永 秀行

県立瀬戸高等学校教諭

勝見ひろみ

県立岡崎工業高等学校教諭

五十嵐崇文

県立豊橋商業高等学校教諭

小島 佳世

総合教育センター教科研究室長

齋藤 育浩

総合教育センター研究指導主事

田中 基明

総合教育センター研究指導主事

米津 明彦（平成25年度主務者）

1 はじめに

昨今の子どもたちの現状として、自制心や規範意識が希薄になり、生活習慣の確立も不十分であることや、いじめや暴力行為等の問題行動に見られるように、心に問題を抱える子どもが増えていることが挙げられている。また、自分に自信のある子どもが国際的に見て少ないことや、学習に無気力であったり将来の生活に対して不安を感じたりしている子どもの増加も指摘されている。このような状況から、学校における道德教育の果たすべき役割は大きくなっている。

今次学習指導要領では、学校教育において「生きる力」という理念を共有し、「確かな学力」「健やかな体」とともに「豊かな心」を育むこととし、児童生徒の発達の段階に応じた道德教育に取り組み、学校の教育活動全体を通じて道德性を養うことが示されている。小学校及び中学校では「道德の時間」が要の時間として設定され、1年間で取り上げる内容項目も明示されている。さらに、道德教育推進教師（道德教育の推進を主に担当する教師）を中心とした指導体制の充実や、発達の段階に応じた指導内容の重点化等が求められている。高等学校においては、生徒が人間としての在り方生き方について自ら考え、体験活動や思索の機会を通して自分自身の判断基準を確立し、自分にふさわしいよりよい生き方を選択できるようなことを目指し、中学校の道德教育の指導内容を踏まえた道德教育を

行うことが大切であるとされている。

平成23年6月に策定された「あいちの教育に関するアクションプランⅡ」では、幅広い県民の参加により道徳性・社会性の向上を図ることが第一の重点目標とされ、道徳教育の充実は、本県の学校・家庭・地域が連携して取り組むべき主要な施策となっている。愛知県教育委員会では、平成25年3月に道徳教育指導参考資料『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めてー』を発行し、各高等学校がさまざまな教育活動の場で具体的に活用することのできるワークシート付きの教材を提供しており、それらを参考にして、各教師が創意工夫を重ね、一層充実した取組を行うことが求められている。

各高等学校においては、全教師が協力して道徳教育を展開するため、指導の方針や重点を明確にした道徳教育の全体計画を作成し、年間指導計画に基づいた道徳教育を実践することとなっている。しかし、小学校及び中学校における「道徳の時間」が高等学校では設定されていないことや、高等学校における道徳教育についての実践研究が少なく、道徳教育の具体的なイメージがつかめないことなどから、道徳教育が浸透し充実しているとは言い難い状況である。各校で道徳教育を意図的・計画的に推進するための方策が必要となっている。

これらのことを踏まえ、本研究では、高等学校における道徳教育の在り方について研究を進め、各学校における道徳教育の推進に資する提案をすることとした。

2 研究の目的

人間としての在り方生き方を十分に考え、主体的に判断し行動できる生徒の育成に資することを目的として、高等学校における道徳教育の在り方及び推進方法について研究する。その際、県内各高等学校において道徳教育についての理解を深め、各校が設定する道徳に関する重点目標の実現に向けて教育活動全体で計画的な道徳教育が展開されるような提案をする。

3 研究の方法

平成25年度から平成27年度までの3年間にわたり、研究協力委員と所員の共同研究を行う。本年度は、次の項目についての調査及び実践を基に高等学校における道徳教育の推進の在り方について協議することとした。その内容について、総合教育センター研究発表会において第1次報告を行うこととした。

- ・ 学習指導要領の趣旨を踏まえた高等学校における道徳教育の在り方について
- ・ 義務教育段階における道徳教育の内容と、高等学校への円滑な接続について
- ・ 道徳教育先進県での取組の調査と、本県の道徳教育推進の方向性について
- ・ 研究協力委員の所属校における『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めてー』（愛知県教育委員会発行）の活用による道徳教育の具体的な取組や推進方法について

4 研究（第1次報告）の内容

(1) 高等学校における道徳教育の必要性と可能性

平成25年11月22日（金）に総合教育センターで開催された研究発表会第2部会において、本研究の第1次報告を行った。同部会において、名城大学人間学部宮嶋秀光教授が「高等学校における道徳教育の必要性と可能性ー継続的・発展的・創造的な道徳性の育成のためにー」という演題で講演され、中学校における道徳教育との円滑な接続や、高等学校における道徳教育の推進の在り方等に関する

知見が得られた。講演のレジュメ（原文）は次のとおりである（資料1）。

【資料1】名城大学人間学部宮嶋秀光教授による講演のレジュメ

高等学校における道德教育の必要性と可能性

—継続的・発展的・創造的な道德性の育成のために—

はじめに

1 道德性とは何か

※「心情、判断力、実践意欲と態度などの道德性」

2 中学校の道德教育における〈道德の時間〉の狙い

※「補充、深化、統合」→「人間としての生き方についての自覚を深め」→「道德的実践力」

※森昭『教育の実践性と内面性』（1955年、著作集Ⅲ所収）

3 高等学校における道德教育の必要性とそこで求められる道德性

※「自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階」

※「人間としての在り方生き方に関する教育」

※マッキンタイア『美德なき時代』（原著1981年、邦訳みすず書房）

義務の倫理学と徳（アレテー）の倫理学

4 OECDが提起する〈コンピテンシー〉

※DeSeCoプロジェクト（2005年）「知識基盤社会」

5 高等学校の教育課程における道德教育の可能性

※（教科・科目等の）「それぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない」

※無着成恭編『山びこ学校』（1951年 青銅社）

資料（引用文）一覧

1—※「道德教育の目標は、……学校の教育活動全体を通じて、道德的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道德性を養うこととする。」（『中学校学習指導要領』平成20年）

2—※「道德の時間においては、以上の道德教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道德教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道德的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道德的実践力を育成するものとする。」（『中学校学習指導要領』平成20年）

3—※「学校における道德教育は、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、（以下5に続く）」（『高等学校学習指導要領』平成21年）

※「一方で諸徳〔注：ギリシア語のアレテーに相当〕と他方で法の道德性〔注：規範や法を遵守すること〕との間の関係を明瞭にする一つの方法とは、共通の事業を達成する共同体を創設す

るにあたって、どの時代でも含まれるであろうことを考察することだ……。そういった事業に参加した人々は、二つのまったく異なったタイプの評価的な実践を展開する必要があったであろう。すなわち、一方で彼らは、共通な（諸）善の実現に貢献するような、精神的・性格的特質を評価する一卓越性（excellences）として賞賛する一必要があっただろう。〔注：ここでも求められる実践は、アレテー（徳）の行使〕……。他方で、いくつかのタイプの行為を……〔共同体に〕害悪を加えたり産み出したりすることとして同定する必要もあっただろう。〔注：ここで求められる実践は、共同体の法や規範に違反しない行動〕……。〔中略〕……。

これら両方のタイプの実践の必要性は、そのような共同体の個々のメンバーが、二つのまったく異なる仕方、その共同体のメンバーとしての彼の役割に背くことがあるという事実から生じている。一方は、たんに十分に善い人ではないという仕方である。それは、その共同体の共通善の達成への彼の貢献をとるに足らないものにしてしまうほど諸徳に欠けた者になりうるということだ。しかし人がこの仕方でも、その共同体の法律において明記された特定の違法行為を一つも侵さないことがありうる。実際、まさしく自分のもつ悪徳のせいで、違法行為を犯すのを控えたということがありうるのだから。」（「アリストテレスの徳論」マキンタイア・篠崎 榮訳『美徳なき時代』みすず書房所収）

4-※ 「《あれかこれかを越えること：思慮深さの一例》 差異や矛盾を扱える能力は、経済的および教育的な分野における多くのキー・コンピテンシーのリストに見出される。今日の多様で複雑な世界が要請しているのは、単一の答え、つまりあれかこれかといった解決へと急ぐのではなく、むしろ、見かけ上は矛盾したり両立しない諸目標を、同一の現実の諸側面として統合することによって、——例えば、自律と連帯、多様と普遍、刷新と継続といったもの間にある緊張に対処していくことである。このように個々人は、いっそう統合的なやり方で思考し行動することを学ぶべきであって、そのためには互いに矛盾したものにみえるかもしれないが、えてして表面的にそうであるにすぎない立場や理想どうしの中に横たわる多くの相互的な結びつきや相互関係を考慮に入れることができなければならない。」（OECD: DeSeCo Exective Summary 2005）

5-※ 「（3の続き）各教科に属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない。」（『高等学校学習指導要領』平成21年）

※ 「僕は、こんな級友と、こんな先生にめぐまれて、今安心して学校にかよい、今日などは、みんなとわんわんさわぎながら、社会科「私たちの学校」のまとめをやることができたのです。

明日はお母さんの三十五日です。お母さんにこのことを報告します。そして、お母さんのように貧乏のために苦しんでいかなければならないのはなぜか、お母さんのように働いてもなぜゼニがたまらなかったのか、しんけんに勉強することを約束したいと思っています。私が田を買えば、売った人が、僕のお母さんのような不幸な目にあわなければならないのじゃないか、という考え方がまちがっているかどうか勉強したいと思います。」（佐藤江一「母の死とその後」 無着成恭編『山びこ学校』1951年所収）

(2) 高等学校における道德教育推進に関する疑問点の整理

各高等学校で道德教育を計画する際の疑問点を検討・整理し、『高等学校における道德教育推進のための一問一答集』として30項目にまとめた(資料2)。

【資料2】『高等学校における道德教育推進のための一問一答集』で取り上げた30項目

- 道德教育の目標
 - 1 学習指導要領の基本理念「生きる力」と道德教育の関係はどのようなか
 - 2 今回の改訂で道德教育が一層重視されるようになった経緯はどのようなか
 - 3 道德教育の目標は何か
 - 4 道德性とは何か
 - 5 道德教育を進めるにあたっての配慮事項は何か
 - 6 道德教育の改訂の要点は何か
 - 7 各学校段階における道德教育の重点は何か
- 中学校における道德教育
 - 8 中学校段階の重点が「人間としての生き方」となっている理由は何か
 - 9 中学校では道德教育をどのように進めているか
 - 10 中学校の道德教育は具体的に何を指導しているか
 - 11 「道德の時間」の目標は何か
 - 12 「道德の時間」の教材は何か
 - 13 「道德の時間」の授業展開の工夫はどのようなか
 - 14 「道德の時間」における配慮事項は何か
 - 15 道德教育における評価の意義は何か
- 高等学校における道德教育の考え方
 - 16 高等学校で「道德教育」を実施する理由は何か
 - 17 高校段階の重点が「人間としての在り方生き方」となっている理由は何か
 - 18 「人間としての在り方生き方」とは具体的にどのようなことか
 - 19 高等学校では「道德の時間」が設定されていないが、どのように進めるのか
 - 20 道德教育の全体計画とは何か
 - 21 道德教育の全体計画を作成する意義は何か
 - 22 道德教育の全体計画に含めるとよい事項は何か
 - 23 道德教育の全体計画を活用できるものにするポイントは何か
- 教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育
 - 24 教育活動全体を通じて行う指導の基本方針は何か
 - 25 各教科・科目における人間としての在り方生き方に関する教育とは何か
 - 26 各教科・科目において道德教育を展開させる留意点・工夫は何か
 - 27 総合的な学習の時間と道德教育の関連はどのようなか
 - 28 特別活動と道德教育の関連はどのようなか
 - 29 キャリア教育と道德教育の関連はどのようなか
 - 30 道德教育を行う時に参考になる資料はあるか

資料の巻末には、中学校の道德教育の四つの視点による内容の一覧を示すとともに、24の内容項目と教科との関連についてもキーワードを付して表にまとめた。次に示す四つの視点と24の内容項目

目（資料3）の理解により，中学校と高等学校の道德教育の接続を考えることが可能になり，各高等学校における道德教育を重点化する際にも役立つと考えた。

【資料3】中学校の道德教育における24の内容項目

- 1 主として自分自身に関すること
 - (1) 望ましい生活習慣，心身の健康，節度と調和
 - (2) 目標の実現，希望と勇気，強い意志
 - (3) 自律の精神，自主，誠実，責任
 - (4) 真理愛，真実の追求，理想の実現
 - (5) 向上心，個性の伸長，充実した生き方
- 2 主として他の人とのかかわりに関すること
 - (1) 礼儀
 - (2) 人間愛，思いやり
 - (3) 信頼・友情
 - (4) 健全な異性観，男女の敬愛
 - (5) 自他の尊重，謙虚，寛容の心
 - (6) 尊敬・感謝，報恩
- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
 - (1) 生命尊重
 - (2) 自然愛，畏敬の念
 - (3) 人間の弱さの克服，人間の気高さ，生きる喜び
- 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること
 - (1) 法やきまりの遵守，権利と義務，社会の秩序と規律
 - (2) 公德心，社会連帯，よりよい社会の実現
 - (3) 正義，公正・公平，差別や偏見のない社会の実現
 - (4) 集団生活の向上，役割と責任
 - (5) 勤労の尊さ，奉仕，公共の福祉
 - (6) 家族愛
 - (7) 愛校心
 - (8) 郷土愛
 - (9) 愛国心，日本人としての自覚，文化の継承と創造
 - (10) 国際理解，人類愛

この『一問一答集』を基に，高等学校における道德教育推進のための基本的な留意事項等について報告した。

また，「道德教育全体計画」の実効性を上げるための校内協力体制の在り方や，道德の内容項目と教科等との関連を示す一覧表（全体計画別葉）の活用の仕方等について報告した。

(3) 『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて－』を活用した道德授業実践

県内の各県立高等学校に配付されている道德教育指導参考資料『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて－』には，総合的な学習の時間や特別活動の時間などさまざまな教育活動の場で活用ができる20種類の道德に関する教材及び展開例が掲載されている。添付されているCD-Rには全データが記録されており，各校の実情に合わせてワークシートを加工して使用することができ

る。

教材には「自己を見つめる」「他者を理解する」「社会と関わる」の区分があり、それぞれ次のタイトルの教材がある（資料4）。

【資料4】『明日を拓くー人間としての在り方生き方を求めてー』の教材タイトル一覧

- ・「自己を見つめる」…自立度チェック，自分調べ，マナーとエチケット，15年後の私見てはいけない手紙，あと一步の勇氣，沈みゆくボート トリアージタグ
- ・「他者を理解する」…「他者」との出会い，コミュニケーション実験 上手に自己表現しよう！，クラスメイトのいいところ探し 沙紀の悩み
- ・「社会と関わる」…〇〇高校を紹介しよう，みんなでつくる条例，青少年の問題行動 赤ちゃんポスト，郷土の偉人杉原千畝（すぎはらちうね） 外国人から見たニッポン，模擬国連

本年度は、各教科においてもそれぞれの特質に応じて、適切な道徳教育を行うことが求められていることを踏まえ、教科における道徳教育の授業実践を試みることにした。国語科と家庭科において、学習内容を道徳教育の視点から捉え直し、『明日を拓く』を活用して、単元構想の中に教科の目標とともに道徳教育の内容を含める工夫を試み、実践事例を報告した。

ア 高等学校における国語科の実践

第1学年生徒を対象として、国語科の科目「国語総合」（現代文分野）において、評論（一）「空気を読む」の単元に『明日を拓く』の教材「上手に自己表現しよう！～アサーショントレーニング～」を組み込んで実践した（資料5）。道徳的視点からの単元の目標として、「自分の考えや気持ちを確認し、相手に配慮しながらそれを素直に伝える」とことと、「相手の考えや気持ちを理解する姿勢を示す」ことを設定した。本実践を通して、生徒のコミュニケーションに対する自信の高まりなどが実証された。

【資料5】国語科の単元構想・学習指導案（部分）

1 教科・科目	国語・国語総合（第1学年，4単位）
2 単元名	評論（一）「空気を読む」 教科書『精選国語総合』（大修館書店） 指導資料『明日を拓くー人間としての在り方生き方を求めてー』（愛知県教育委員会）第2章第2節 他者を理解する「上手に自己表現しよう！～アサーショントレーニング～」
3 単元の目標	【教科の視点】 <ul style="list-style-type: none">・叙述に即して筆者の主張を読み取る。・現代のコミュニケーションの在り方に対する問題意識を高める。 【道徳の視点】 <ul style="list-style-type: none">・自分の考えや気持ちを確認し、相手に配慮しながらそれを素直に伝える。・相手の考えや気持ちを理解する姿勢を示す。

4 単元の指導計画（全4時間） ※1時間：50分			
配当時間	指導内容		
1次（3時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・評論文を、構成に注意しながら読み取らせる。 ・筆者の主張を踏まえ、自己のコミュニケーションの問題点を考えさせる。 		
2次（1時間） ※本時	<ul style="list-style-type: none"> ・アサーショントレーニングを通してよりよいコミュニケーションの在り方を学ばせる。 		
5 本時の展開			
	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (10分)	<ol style="list-style-type: none"> 1 活動のねらいを理解する。 2 「アサーティブ度チェック」(プリント)の質問に答え、現在の自分の自己表現の特徴を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「解説」を用いて、自己表現の三つのパターンを紹介する。 ①ディフェンシブ（受身的）な自己表現 ②アグレッシブ（攻撃的）な自己表現 ③アサーティブな（自他尊重の）自己表現 	<p>〈ねらいの説明〉</p> <p>「アサーティブ度チェック」(プリント)</p>
展開 (30分)	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己表現の三つのパターンを、ロールプレイの具体例を通して理解する。 2 三人のグループを作り、ロールプレイでアサーションを体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導者と指名された生徒、または生徒二人がロールプレイを例示。 ○状況例は実情に合わせ、生徒にとって身近な内容にする。 ○自己主張役は相手と自分の双方を尊重する気持ちで主張するようにさせる。 ○相手役は簡単に妥協しないようにするが、残り30秒の合図で妥協し、解決するようにさせる。 	<p>※具体例のシナリオ</p> <p>「アサーティブな自己表現 ロールプレイ」(プリント)</p>
終結 (10分)	<ol style="list-style-type: none"> 1 「振り返りシート」を用いて本時の活動を振り返る。 2 グループ内・クラス内でシェアリングを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「振り返りシート」の3, 7, 8を中心に話し合うように指示する。 	<p>振り返りシート</p> <p>〈まとめ〉</p>
6 学習活動と道徳の内容項目（中学校の分類による）との関連			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや気持ちを確認し、相手に配慮しながらそれを素直に伝える。 			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">1-(3) 主として自分自身に関すること（自律の精神，自主，誠実，責任）</div>			
<ul style="list-style-type: none"> ・相手の考えや気持ちを理解する姿勢を示す。 			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">2-(5) 主として他の人とのかかわりに関すること（自他の尊重，謙虚，寛容の心）</div>			

イ 高等学校における家庭科の実践

第3学年生徒を対象として、家庭科の科目「家庭基礎」において、「保育と子どもの福祉」の単元に

『明日を拓く』の教材「赤ちゃんポスト」を組み込んで実践した（資料6）。道徳的視点からの単元の目標として、「命はかけがえのないものであることを理解し、命の尊さについて考えることができる」ことや、「いろいろなもの見方や考え方があることを理解して、他の人に学ぶことができる」ことなどを設定した。本実践では、「命の尊さ」に関わる問いにより、生徒がさまざまな気持ちや考えを表現し、他の人の意見を聞いて自分の考えが深まったことなどが示された。

【資料6】家庭科の単元構想・学習指導案（部分）

1 教科・科目	家庭・家庭基礎（第3学年，3単位）												
2 単元名	保育と子どもの福祉 教科書『家庭基礎 自立・共生・創造』（東京書籍） 指導資料『明日を拓く－人間としての在り方生き方を求めて－』（愛知県教育委員会）第2章第3節 社会と関わる「赤ちゃんポスト」												
3 単元の目標	【教科の視点】 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児が心身ともに健やかに成長するためには、親としての自覚と責任を持ち、愛情をもって子どもを産み育てることが必要であることを理解する。 ・乳幼児が健やかに発達するために必要な子育て環境の整備において、親や家族、地域や社会が果たすべき役割について理解する。 【道徳の視点】 <ul style="list-style-type: none"> ・命はかけがえのないものであることを理解し、命の尊さについて考えることができる。 ・人は他の人とかかわりの中で生きることを理解し、思いやりの心をもつことができる。 ・いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、他の人に学ぶことができる。 												
4 単元の指導計画（全10時間） ※1時間：50分	<table border="1"> <thead> <tr> <th>配当時間</th> <th>指導内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次（1時間）</td> <td>子どもの触れ合いから学ぶ</td> </tr> <tr> <td>2次（3時間）</td> <td>子どもの育つ力</td> </tr> <tr> <td>3次（4時間）</td> <td>親としてともに育つ</td> </tr> <tr> <td>4次（2時間） ※本時： 2時間目</td> <td> 健やかに育つ環境づくり ・子どもの権利と社会福祉 ・子どもを守る社会の責任（本時） </td> </tr> </tbody> </table>			配当時間	指導内容	1次（1時間）	子どもの触れ合いから学ぶ	2次（3時間）	子どもの育つ力	3次（4時間）	親としてともに育つ	4次（2時間） ※本時： 2時間目	健やかに育つ環境づくり ・子どもの権利と社会福祉 ・子どもを守る社会の責任（本時）
配当時間	指導内容												
1次（1時間）	子どもの触れ合いから学ぶ												
2次（3時間）	子どもの育つ力												
3次（4時間）	親としてともに育つ												
4次（2時間） ※本時： 2時間目	健やかに育つ環境づくり ・子どもの権利と社会福祉 ・子どもを守る社会の責任（本時）												
5 本時の展開	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学習活動（生徒）</th> <th>指導上の留意点（教員）</th> <th>参考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>導入（8分）</td> <td> 1 前時学習内容の復習 2 本時の目標と学習内容を知る。 </td> <td> ○前時の学習を振り返りながら、「生存権」に関する法律や条約について知らせる。 ○「赤ちゃんポスト」の〈ねらい〉を読み、本時の目標と学習内容を伝える。 </td> <td> ワークシート1 〈ねらい〉 </td> </tr> </tbody> </table>				学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考	導入（8分）	1 前時学習内容の復習 2 本時の目標と学習内容を知る。	○前時の学習を振り返りながら、「生存権」に関する法律や条約について知らせる。 ○「赤ちゃんポスト」の〈ねらい〉を読み、本時の目標と学習内容を伝える。	ワークシート1 〈ねらい〉		
	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考										
導入（8分）	1 前時学習内容の復習 2 本時の目標と学習内容を知る。	○前時の学習を振り返りながら、「生存権」に関する法律や条約について知らせる。 ○「赤ちゃんポスト」の〈ねらい〉を読み、本時の目標と学習内容を伝える。	ワークシート1 〈ねらい〉										

展開 (12分)	1 母親や里親の気持ちを考える。	○「赤ちゃんポスト」について簡潔に説明し、新聞記事前半を読ませる。 ○記事を読んだ感想をまとめさせる。(5分程度) ○母親や里親の事情や心情について、ワークシートに沿って考えさせる。	<補足説明> ワークシート2 (1) ワークシート2 (2)
(20分)	2 赤ちゃんポストの是非について考える。 3 赤ちゃんポストの是非や在り方について、グループで話し合い、発表する。 4 グループでの話し合いと発表後の赤ちゃんポストについての自分の考えをまとめる。	○新聞記事後半を読ませる。 ○赤ちゃんポストの是非について各自で考えさせる。(5分程度) ○グループでの話し合いの進め方、司会・書記の役割及び配慮事項を全体に伝える。 ○4～5名のグループに分け、司会と書記を決める。 ○各自で考えたことを基に、グループで話し合わせる。(10分程度)	ワークシート2 (3) <司会用資料> <記録用資料> ワークシート2 (4) (5)
(5分)	5 自分自身が親となったとき子どもへの接し方について「命の尊厳」の視点から自由に記述する。	○グループでの話し合いやクラスでの発表を聞き、参考になった考え方や気持ちの変化などを自由に書かせる。	ワークシート3
終結 (5分)	1 本時のまとめ 2 自己評価	○「赤ちゃんポスト」の<まとめ>を読み、「命の尊厳」について考えさせる。 ○話し合いと発表について、良かった点を中心にコメントする。 ○本時の自己評価を記入させる。	<まとめ> <自己評価>

6 学習活動と道徳の内容項目(中学校の分類による)との関連

- 命はかけがえのないものであることを理解し、命の尊さについて考えることができる。

3- (1) 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること (生命尊重)

- 人は他人とのかかわりの中で生きることを理解し、思いやりの心をもつことができる。

2- (2) 主として他の人とかかわりに関すること (人間愛, 思いやり)

- いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、他の人に学ぶことができる。

2- (5) 主として他の人とかかわりに関すること (自他の尊重, 謙虚, 寛容の心)

5 研究(第1次報告)のまとめと今後の課題

(1) 高等学校における道徳教育の推進に向けて

学習指導要領の趣旨を踏まえ、各校が道徳教育の重点目標を設定し、目指す生徒像の実現に向けて教育活動全体で道徳教育を推進していくためには、校内の指導体制の充実が必要である。さらに、各教師が道徳教育についての理解を深め、道徳の視点から教育活動を継続的に見直していくことも

大切である。

本研究会が提案する『高等学校における道德教育推進のための一問一答集』は、学校における道德教育を考える手掛かりとして有効であると考えられる。今後も各校で活用されるようにニーズを把握して内容の検討を継続するとともに、今日の重点的な課題であるキャリア教育やE S D（持続発展教育）等の視点や生徒指導等との関連を整理し、相乗効果を図るための方策についても検討していきたい。

(2) 『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて一』の活用による道德教育の推進

国語科と家庭科の授業実践により、『明日を拓く』の教材を活用することで、教科においても道德の視点を踏まえた単元構想及び授業展開の工夫ができることが示された。教科の単元の目標を実現する上でも効果があり、教科における言語活動の充実の点からも資料の活用が望まれる。

今後の課題として、総合的な学習や特別活動など幅広い教育活動に『明日を拓く』の教材を意図的・計画的に取り入れて、高等学校の教育活動全体で道德教育を活性化する工夫を図りたい。

(3) これからの道德教育の動向を踏まえた取組

文部科学省の有識者会議「道德教育の充実に関する懇談会」において、小学校及び中学校の「道德の時間」の教科化が検討されるなど、道德教育の在り方が問われている。中学校の道德教育の内容を踏まえた道德教育を進める高等学校でも、義務教育段階の道德教育の変化を把握し、生徒の豊かな心の育成のために教育活動を更に充実させる必要がある。国の新たな方針を踏まえた高等学校段階での道德教育の推進に資するよう、調査研究を充実していきたい。

参考文献等

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 道德編』東洋館出版社，2008
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道德編』日本文教出版，2008
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』東山書房，2009
- 中央教育審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」2008
- 加倉井隆編著『中学校新学習指導要領の展開 道德編』明治図書，2008
- 赤堀博行『道德教育で大切なこと』東洋館出版社，2010
- 赤堀博行編著『心を育てる要の道德授業 補充・深化・統合へのアプローチ』文溪堂，2010
- 徳永正直，堤正史，宮嶋秀光他『道德教育論—対話による対話への教育—』ナカニシヤ出版，2003
- 沼田裕之，増渕幸男，伊勢孝之編著『道德教育21の問い』福村出版，2009
- 林泰成，白木みどり『人間としての在り方生き方をどう教えるか～小中高12年間を通した道德教育・キャリア教育～』教育出版，2010

高等学校における道德教育推進のための一問一答集

平成 25 年度

高等学校における道德教育の推進の在り方に関する研究

愛知県総合教育センター

目 次

1	道徳教育の目標	
Q 1	学習指導要領の基本理念「生きる力」と道徳教育の関係を教えてください。	1
Q 2	今回の改訂で道徳教育が一層重視されるようになった経緯を教えてください。	1
Q 3	道徳教育の目標は何ですか。	1
Q 4	道徳性とは何ですか。	2
Q 5	道徳教育を進めるにあたっての配慮事項は何ですか。	2
Q 6	道徳教育の改訂の要点は何ですか。	3
Q 7	各学校段階における道徳教育の重点を教えてください。	3
2	中学校における道徳教育	
Q 8	中学校段階の重点が「人間としての生き方」となっている理由は何ですか。	4
Q 9	中学校では道徳教育をどのように進めているのですか。	4
Q 10	中学校の道徳教育は具体的に何を指導しているのですか。	4
Q 11	中学校における「道徳の時間」の目標は何ですか。	5
Q 12	中学校における「道徳の時間」の教材(資料)について教えてください。	6
Q 13	中学校における「道徳の時間」の授業展開の工夫について教えてください。	6
Q 14	中学校の「道徳の時間」における配慮事項は何ですか。	7
Q 15	中学校の道徳教育における評価の意義は何ですか。	8
3	高等学校における道徳教育の考え方	
Q 16	どうして高等学校で「道徳教育」を実施するのですか。	9
Q 17	高校段階の重点が「人間としての在り方生き方」となっている理由は何ですか。	9
Q 18	「人間としての在り方生き方」とは、具体的にどのようなことですか。	9
Q 19	高等学校では「道徳の時間」が設定されていませんが、どのように進めるのですか。	10
Q 20	道徳教育の全体計画とは何ですか。	10
Q 21	道徳教育の全体計画を作成する目的は何ですか。	10
Q 22	道徳教育の全体計画に含めるとよい事項は何ですか。	11
Q 23	道徳教育の全体計画を活用できるものにするポイントは何ですか。	11
4	教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育	
Q 24	教育活動全体を通じて行う指導の基本方針は何ですか。	12
Q 25	各教科・科目における人間としての在り方生き方に関する教育とは何ですか。	12
Q 26	各教科・科目において道徳教育を展開させる留意点・工夫は何ですか。	13
Q 27	総合的な学習の時間と道徳教育の関連を教えてください。	13
Q 28	特別活動と道徳教育の関連を教えてください。	14
Q 29	キャリア教育と道徳教育の関連を教えてください。	14
Q 30	道徳教育を行うときに参考になる資料はありますか。	14

1 道徳教育の目標

Q 1 学習指導要領の基本理念「生きる力」と道徳教育の関係を教えてください。

A 今回の改訂においても、「生きる力」の育成を基本的なねらいとしています。この「生きる力」とは、基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などのことで、この知識基盤社会を生き抜くために必要な人間としての実践的な力です。この「生きる力」における豊かな人間性の育成を図るのが「心の教育」であり、その基盤として道徳教育があります。今日の生徒の現状等を踏まえてこれからの学校教育を考えると、道徳教育の重要性が改めて強調されています。

Q 2 今回の改訂で道徳教育が一層重視されるようになった経緯を教えてください。

A 現在、子どもの自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であることなど、子どもの心と体の状況に関わる課題は少なくありません。また、自分に自信がある子どもが国際的に見て少ないことや、学習や将来の生活に対して無気力であったり不安を感じたりしている子どもの増加等も指摘されています。その中で、現実から逃避し、今の自分さえよければという自己の考えに閉じこもりがちな子どもの問題も指摘されています。子どもたちが、他者、社会、自然・環境との豊かな関わりの中で生きるという実感や達成感を深めてこそ健全な自信が育まれます。そのためにも、学校の集団生活の場としての機能を十分に生かし、道徳教育の一層の充実を図らなければなりません。子どもたちの問題だけでなく、今日の家庭や地域社会及び学校における道徳教育の現状などからみても、更に道徳教育の充実を図ることが重要です。

Q 3 道徳教育の目標は何ですか。

A 総則第1款の2に示された道徳教育の目標は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、以下のアからカのような人間を育成するために、その基盤としての道徳性を養うことを目標としています。

ア 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う

イ 豊かな心をはぐくむ

ウ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る人間を育成する

エ 公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努める人間を育成する

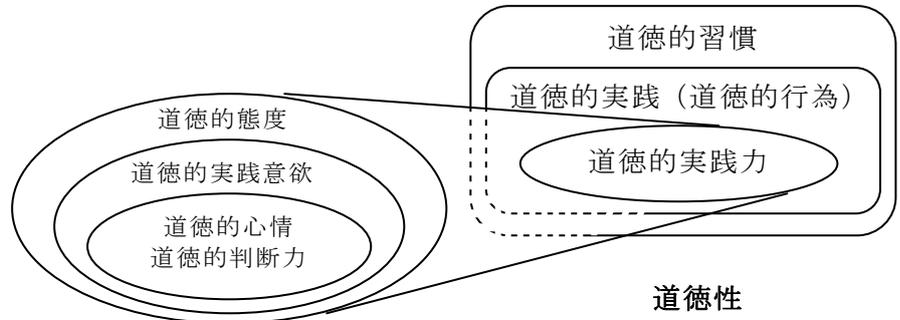
オ 他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する人間を育成する

カ 未来を拓く主体性のある日本人を育成する

Q 4 道徳性とは何ですか。

A 道徳性とは、人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的
行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものです。それは人間らしいよさ
であり、道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたものと言えます。

この道徳性は、道徳的心情、道徳的判断力、道徳の実践意欲と態度から成る道徳的実践
力と、道徳的実践力が高まることによって可能になる道徳的実践、そして、
それらの行為が繰り返し行われることによって身に付く道徳的習慣から構成されます。



これらの語句の説明は
以下のとおりです。

道徳教育指導者養成研修(中央指導者研修)参考

	諸様相	内容及び説明
道徳的 実践 力	道徳的 心情	道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。人間としてのよりよい生き方や善を思考する感情といえる。道徳的行為への動機として強く作用する。
	道徳的 判断力	それぞれの場面で善悪を判断する能力のこと。人間として生きるために道徳的価値が大切だと理解し、さまざまな状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力といえる。的確な道徳的判断力をもつことによって、それぞれの場面において機に応じた道徳的行為が可能になる。
	道徳的 実践意欲 と態度	道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性のこと。道徳的実践意欲は道徳的心情や道徳的判断力を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働きで、道徳的態度は具体的な道徳的行為への身構えといえる。

Q 5 道徳教育を進めるにあたっての配慮事項は何ですか。

A 道徳教育を進めるに当たっては、生徒の内面に根ざした道徳性を養うこととの関わりにおいて道徳的実践力を高めるよう配慮して指導することが大切です。

本来、道徳的実践は、内的な力としての道徳的実践力が基盤になければなりません。道徳的実践力が高まることによってより確かな道徳的実践ができるのであり、そのような道徳的実践を繰り返すことによって、内なる道徳的実践力も深まります。道徳教育はこのような相互作用によって充実していく必要があります。

そしてその際、自らの生命の大切さを深く自覚するとともに、他の生命を尊重する「自他の生命を尊重する精神」、他者の考えを尊重しつつ、自ら考え、自らの意志で決定し、その行為の結果には責任をもつという「自律の精神」、自分が社会の構成員の一員であることを認識し、その中での役割を自覚して主体的に協力していくことのできる「社会連帯の精神」、社会の秩序と規律を理解して自らに課せられた「義務を果たし責任を重んずる態度」、さらには、自分と異なる他者の意見に十分耳を傾け、他者を尊重するとともに、各人が自他の「人権を尊重し」世の中からあらゆる差別や偏見をなくすよう努力し、望ましい社会の理想を掲げ、そのような社会の実現に積極的に尽くす態度を養うよう配慮することが必要です。

Q 6 道徳教育の改訂の要点は何ですか。

A 道徳教育の目標については、Q 3 で触れましたが、その中で、新たに加えられた内容は次のとおりです。

- ・伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛すること
- ・公共の精神を尊ぶこと
- ・他国を尊重すること
- ・環境の保全に貢献すること

これらは、教育基本法改正等で明確になった教育の理念に基づいたものです。

また、「総則」第5款の「3 指導計画の作成に当たって配慮すべき事項」においても「(4) 全教師が協力して道徳教育を展開するため、第1款の2に示す道徳教育の目標を踏まえ、指導の方針や重点を明確にして、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、その全体計画を作成すること」が新たに加えられました。これにより、小中学校・高等学校ともに道徳教育の全体計画を作成・実施することになりました。

Q 7 各学校段階における道徳教育の重点を教えてください。

A 道徳教育については、まず子どもたちの実態を踏まえ、幼稚園・小・中・高等学校の学校段階や小学校の低・中・高学年のそれぞれの段階ごとに取り組むべき重点を明確にし、より効果的な指導が行われるようにする必要があります。その際、

- ・幼稚園においては規範意識の芽生えを培うこと
- ・小学校においては生きる上で基盤となる道徳的価値観の形成を図る指導を徹底するとともに自己の生き方についての指導を充実すること
- ・中学校においては思春期の特徴を考慮し、社会との関わりを踏まえ、人間としての生き方を見つめさせる指導を充実すること
- ・高等学校においては社会の一員としての自己の生き方を探求するなど人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める指導を充実すること

にそれぞれ配慮する必要があります。

とりわけ、基本的な生活習慣や人としてしてはいけないことなど社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識、自他の生命の尊重、自分への信頼感や自信などの自尊感情や他者への思いやりなどの道徳性を養うとともに、それらを基盤として、法やルールの意義やそれらを遵守することなどの意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できる人間を育てることが大切です。

2 中学校における道德教育

Q 8 中学校段階の重点が「人間としての生き方」となっている理由は何ですか。

A 中学生の時期には、小学生の時期よりも心身両面にわたる発達が著しく、他者との連帯を求めると同時に主体的な自我の確立を求め、自己の生き方についての関心が高まり、自分の人生をよりよく生きたいという内からの願いが強くなります。道德教育においては、生徒のよりよく生きようとするこの願いにこたえるために、生徒と教師がともに考え、ともに探求していくこととなります。ですから、中学校における道德教育は、「人生いかに生きるべきか」という生き方の問題と言いかえることができるのです。

Q 9 中学校では道德教育をどのように進めているのですか。

A 中学校における道德教育は、「道德の時間」（各学年で年間 35 時間、週 1 時間）を要として学校の教育活動全体を通じて行っています。「道德の時間」が、中学校の道德教育における要となっている理由は、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動は、それぞれの目標に基づいて計画的な教育活動が営まれており、これら各教科等の中で行われる道德教育は、道德的価値の全体にわたって行われているわけではありません。ですから、「道德の時間」が学校の道德教育の中核的な役割を果たす要として必要な時間になるのです。

Q 10 中学校の道德教育は具体的に何を指導しているのですか。

A 中学校の3年間に、生徒が自覚を深め、自分のものとして身に付け発展させていく必要がある道德的価値を、平易な短い文章で表現した内容項目というものがあります。内容項目は、次の四つに分類整理され、全体で 24 項目あり、いずれの学年においても全ての内容項目を取り上げることになっています（24 項目の内容は資料 1 を参照してください）。

- 1 主として自分自身に関する事
- 2 主として他の人とのかかわりに関する事
- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関する事
- 4 主として集団や社会とのかかわりに関する事

これらの内容項目の指導に当たっての配慮されている事項は次の二つです。

(1) 関連的、発展的な取扱いの工夫

内容項目は、必ずしも各項目を一つずつの主題として扱われているわけではありません。各学校の実状、特に生徒の実態に即して、生徒の人間的な成長をどのように図り、どのように道德性を育成するかという観点から、幾つかの内容を関連付けて指導されています。

また、「道德の時間」の一時間一時間は単発的なものとするのではなく、年間を通して発展的に指導されています。特に、必要な内容項目を重点的にあるいは繰り返して取り上げる場合には、それまでの指導を踏まえて、一層深められるような配慮と工夫がなされています。また、学年が上がり、同じ内容項目を指導する際には、前年の指導を本年の指導の中に発展させるよう配慮されています。

(2) 各学校における重点的指導の工夫

各学校においては、生徒や学校の実態、学校の特色などを考慮して、内容項目を指導する際、学校で更に重点的に指導したい内容項目をその中から選び、多様な指導を工夫

することによって、内容項目全体の指導が一層効果的に行われるよう配慮されています。

この重点的指導については、生徒や学校の実態、生徒や保護者の意見等を把握して、学校の教育活動全体で重点化を図るものと、「道德の時間」の指導の中で重点化を図るものなどがあり、関連を図りながら指導されています。

Q11 中学校における「道德の時間」の目標は何ですか。

A 「道德の時間」の目標は中学校学習指導要領で「道德の時間においては、以上の道德教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道德教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道德的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道德的実践力を育成するものとする。」とされています。先にも触れましたが、「道德の時間」は、各教科や総合的な学習の時間及び特別活動など学校の教育活動全体を通じて行われる道德教育の要の時間としての役割を担っています。その「道德の時間」における留意点を以下にまとめます。

(1) 学校の教育活動全体を通じて行う道德教育を補充、深化、統合する

各教科、総合的な学習の時間及び特別活動等は、それぞれに固有の目標をもっており、計画的に取り組みられています。ですから、それらの指導の中で行われる道德教育が断片的であったり徹底を欠いたりするのは避けられないことです。また、単に個々の教科等に着眼した場合に、断片的で徹底を欠くばかりでなく、これらを全体として展望しても、必ずしもそれだけでは、十分な成果をあげることができないのもやむをえません。したがって、その断片的な不十分さを補充し、掘り下げを欠いた不十分さを深化して、それらの指導を統合する「道德の時間」がどうしても必要になってくるのです。

(2) 道德的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める

中学生の時期は、人生に関わるいろいろな問題についての関心が高くなり、人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかという人間としての生き方を主体的に模索し始める時期です。道德的価値に基づいた人間としての生き方について、自覚を深めさせながら指導してこそ、真に道德的実践力の育成が可能となります。

(3) 道德的実践力を育成する

道德的実践力とは、人間としてよりよく生きていく力であり、一人一人の生徒が道德的価値を自覚し、人間としての生き方について深く考え、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道德的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味しています。

道德的実践は、内面的な道德的実践力が基盤にあり、道德的実践力が育つことによって、より確かな道德的実践ができるのであり、そのような道德的実践を繰り返すことによって、道德的実践力も強められます。道德教育は、道德的実践力と道德的実践の指導が相互に響き合って、生徒一人一人の道德性を高めていくものでなければなりません。

「道德の時間」においては、その道德的実践力を育てることを目的としており、「道德の時間」の特質を十分に理解して、教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話し合いなどに終始することのないように特に留意し、それにふさわしい指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫をすることが大切です。道德的実践力は、徐々に、しかも、着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされなければなりません。

Q12 中学校における「道徳の時間」の教材(資料)について教えてください。

A 「道徳の時間」の指導に当たっては、登場人物の道徳的行為を含んだ読み物資料や映像ソフト等を用いることが多くあります。読み物資料には、詩、長文の物語や伝記、戯曲、実話、論説文、インターネットによる資料など、多様な形式のものが考えられますが、読み物資料を学習指導の中で効果的に生かすには、登場人物への共感を中心とした展開にするだけでなく、資料に対する感動を大事にした展開にしたり、迷いや葛藤を大切にしたりした展開、知見や気づきを得ることを重視した展開、批判的な見方を含めた展開にしたりするなど、その資料の特質に応じて、資料の提示の仕方や取扱いを工夫しています。以下のような資料があります。

- 文部科学省「中学校道徳読み物資料集」「小学校道徳読み物資料集」
文部科学省のウェブページから資料やイラストをダウンロードできます。
- 「心のノート」
文部科学省が、道徳教育の一層の充実に資するため、小・中学校の児童・生徒に配布している資料です。このノートは、「道徳の時間」をはじめ、学校の教育活動のさまざまな場面で使用することができるよう、児童生徒が自らページを開いて書き込んだり、家庭で話題にしたりできるよう工夫されています。また、教師用参考資料として「心のノート活用のために」と『「心のノート」を生かした道徳教育の展開－「心のノート」活用事例集－』があります。
- 「私たちの道徳」
「心のノート」を全面改訂したもので、生徒が道徳的価値について自ら考え、実際に行動できるようになることをねらいとして作成された教材です。平成26年度から使用できるよう、小・中学校の児童・生徒に配布されます。
- 「明るい人生」
愛知県教育振興会から出されている副読本です。

Q13 中学校における「道徳の時間」の授業展開の工夫について教えてください。

A 「道徳の時間」は、生徒一人一人が道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践に結び付く内面的資質としての道徳的実践力を育成する時間です。このことを踏まえて、各教科等との関連や家庭、地域社会との連携を生かし、心に響くよう多様な展開が工夫されています。

その際、内容項目の単なる知的理解を促すことに終始したり、一方的に行為の仕方を指導したりするのではなく、ねらいとする道徳的価値について、生徒に葛藤させたり、理解を深めさせたりするなど、積極的に自己内対話を促すことが大切です。

1 授業の「山」の設定

先にも触れましたが、教材には、生徒の迷いや葛藤を起こさせるモラルジレンマ教材や生徒に感動を与える教材などがあり多種多様ですが、授業のねらいを明確にするためにも、授業の中に「山」をつくるのが大切です。モラルジレンマ教材では、主人公の道徳的変化の起こる場面か、その直後に中心場面が来るので、そこを授業の「山」とし発問を考えることとなります。感動的な資料では、主人公が最初から最後まで善人で道徳的な変化がない場合が多いので、一番感動的な場面、あるいは主人公の模範的な行為をする場面を「山」とし発問を考えます。

2 発問構成

「道徳の時間」の指導は、教師による発問の適否によりその指導効果が大きく変わります。その際、ねらいの根底にある道徳的価値を、生徒が主体的にとらえ、人間としての生き方の自覚を深められるようにすることが大切です。そのために、生徒が体験を通して感じたことや考えたこと、更に日常の具体的な事柄を話題にするなど、資料に描かれた道徳的価値を自分の問題として受け止め、深く自己を見つめることが可能となるよう、発問を工夫する必要があります。

特に、授業のねらいを達成させるために欠くことのできない発問を中心発問といい、生徒の実態と資料の特質を押さえて、工夫することが重要です。主人公の道徳的変化が起こった箇所での中心発問は、「どうして主人公は〇〇したのか」等、生徒が主人公の気持ちを考えて答えられるように発問します。感動的な資料のときには、ストーリーの中で心打たれる場面に注目し、「〇〇のどこが立派だと思うか」等、人間としての優しさや思いやりについて発問します。

3 授業のまとめの工夫

1時間の授業のまとめの段階では、深めた価値を整理し、実践への意欲化を図ることが大切です。生徒の感想を発表させたり書く活動を取り入れたり、教師が説話をしたり、補助的な資料を提示したりして生徒の考えを整理することなどが考えられます。そして、生徒一人一人が、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感でき確かめることができるように工夫します。ここで大切なことは、「道徳の時間」は、学級活動などのように、統一した結論を出してまとめるのではなく、あくまでも生徒自身による道徳的価値の自覚を促すことが重要です。

Q14 中学校の「道徳の時間」における配意事項は何ですか。

A 「道徳の時間」における配意事項を以下にまとめます。

1 生徒の意見に対する教員の姿勢

道徳の授業では、お互いの価値観を出し合い、多様な価値観があることを実感させることが重要です。したがって、生徒の意見に対して、反対したり問題解決的にまとめをしたりするのではなく、「あ～、そうか」とか「なるほど」等生徒の一つ一つの意見を尊重し、受け止める姿勢が大切です。

また、発問に対し、予想される生徒の答えをあらかじめ考えておき、生徒の価値観のずれや、より高い価値観に気付けるよう補助的な質問を準備しておくことも大切です。

2 自己内対話を通して道徳的価値の自覚を深める

道徳教育では、最終的には道徳的実践のできる生徒の育成が目標となります。しかし、それは一方的な押し付けによるものではなく、生徒が自主的、自律的に行えるようにしなければなりません。このような道徳的実践を可能にするためには、生徒が実践の基盤になる道徳的価値を自覚し、実践につなげる内面的な能力としての道徳的実践力を身に付けることが重要です。特に道徳的価値の自覚については、自分の捉え方を振り返らせ、自分の考え方や、他の多様な意見を踏まえて、試行錯誤、悩み、葛藤など自己内対話を繰り返すことにより、より深く自覚させることが重要です。

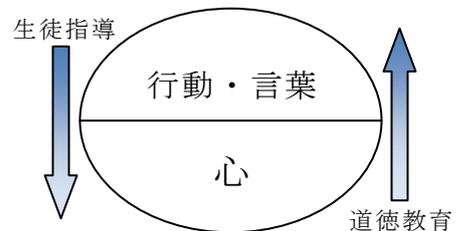
3 体験活動を道徳性の育成に役立てる

子どもたちの現状の課題として、地域の大人や異年齢の子どもたちとの交流不足、自然体験などの体験活動の減少、人間関係を築く力の欠如や集団生活等における社会性の

欠如などが挙げられます。職場体験やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験は、社会との関わりを踏まえた人間としての在り方や、自分が価値ある存在であることが実感できる、非常に効果的なものです。そして、これらの豊かな体験後に、体験の過程で、学んだり、感じたり、考えたりした様々なことを想起する時間を設定し、自らを振り返らせて、他者との関わりについて考えさせることにより、生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図ることが重要です。

4 道徳教育と生徒指導

道徳教育と生徒指導の関係についてはしばしば議論されます。横山利弘(元文部科学省初等中等教育局高等学校課教科調査官)は、「教師はともすると生徒の外的な行動や言葉遣いの指導に重点を置きがちになる。それでは内的な心を育てる道徳教育にはならない」と言い、その違いを、右の図を用いて分かりやすく説明しています。



横山利弘の図

円形の上半分の人に「行動・言葉」を位置づけ、下半分に「心」を設定します。生徒指導が「行動・言葉」への外的な指導を通して内にある「心」の指導を行うのに対して、道徳教育は心の教育であるから、内にある「心」を育てて、外的な「行動・言葉」に結実させていこうとするものです。

頭髮指導や服装指導など、行動や言葉遣いに対する外的な生徒指導は、多くの場合、指導後、早い時期にその効果が現れることが多くあります。それに対して道徳教育は、心に訴えかけ自己内対話を促す教育ですから、生徒は知識として、道徳的にしてはいけないことや道徳的に価値があることは分かっている、すぐに道徳的实践に表れるものではないので、道徳教育の効果をすぐに期待するものではありません。これが、生徒指導が即効薬、道徳教育が漢方薬と言われるゆえんです。

Q15 中学校の道徳教育における評価の意義は何ですか。

A 教育における評価は、生徒にとっては自分の成長を振り返る契機となるものであり、教師にとっては指導計画や指導方法を改善する手掛かりとなるもので、非常に意義があるものです。中学校学習指導要領でも、「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること」とされています。

一方、道徳教育における評価については、中学校学習指導要領に「生徒の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある」とされ、道徳教育における評価についても、生徒自身による自己評価を生かして新たな目標への努力を支援するとともに、生徒の道徳的なよさや道徳的成長に対する共感的な理解に基づいて指導計画や指導方法を評価し、その結果を指導の改善に生かしていくこととされ、道徳教育においても評価は重要な意義があるとされています。

ただ、道徳性の評価においては、生徒自らが成長を実感し、新たな課題や目標を見つけられるよう、教師が生徒の道徳的な成長を温かく見守り、よりよく生きようとする努力を認め、勇気付ける働きを重視するため、「道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする」とされています。これは、道徳性は人格の全体に関わるものであり、不用意に数値などによる評価を行うことは適切ではないことを特に明記したものとと言えます。

3 高等学校における道德教育の考え方

Q16 どうして高等学校で「道德教育」を実施するのですか。

A 道德教育は、豊かな心を持ち、人間としての在り方生き方の自覚を促し、道德性を育成することをねらいとする教育活動であり、社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっています。

今日の家庭や地域社会の教育力の低下及び学校における道德教育の現状やQ2で説明したような生徒の実態などからみて、高校段階においても更に道德教育の充実を図ることが重要です。

Q17 高等学校段階の重点が「人間としての在り方生き方」となっている理由は何ですか。

A 高等学校段階は、自分の人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何かということについて思い悩む時期です。また、自分自身や自己と他者との関係、さらには、広く国家や社会について関心を持ち、人間や社会の在るべき姿について考えを深める時期でもあります。それらを模索する中で、生きる主体としての自己を確立し、自らの人生観・世界観ないし価値観を形成し、主体性をもって生きたいという意欲を高めていくのです。したがって、高等学校においては、このような生徒の発達段階を考慮し、人間の在り方に深く根ざした人間としての生き方に関する教育を推進することが求められます。

Q18 「人間としての在り方生き方」とは、具体的にどのようなことですか。

A 人間は、同じような状況の下に置かれている場合でも必ずしも全て同じ生き方をするとはいえず、同一の状況の下でも、幾つかの生き方が考えられる場合が少なくありません。このように、考えられる幾つかの生き方の中から、一定の行為を自分自身の判断基準に基づいて選択するということが、主体的に判断し行動するということです。社会の変化に対応して主体的に判断し行動しうるためには、選択可能な幾つかの生き方の中から自分にふさわしい、しかもよりよい生き方を選ぶ上で必要な、自分自身に固有な選択基準ないし判断基準をもつことが必要です。このような自分自身に固有な選択基準ないし判断基準は、生徒一人一人が人間としての在り方を問うことを通して形成されていきます。また、このようにして形成された生徒一人一人の人間としての在り方についての基本的な考え方が自分自身の判断と行動の選択基準となるのです。

このような自分自身に固有な選択基準ないし判断基準は、具体的には、さまざまな体験や思索の機会を通して自らの考えを深めることにより形成されてくるものです。したがって、総則第1款の4でも示されているように、就業体験やボランティア体験など体験的な活動を重視することが大切となります。人間としての在り方生き方に関する教育においては教師の一方的な押し付けや単なる先哲の思想の紹介にとどまることのないように留意し、人間としての在り方生き方について生徒が自ら考え、自覚を深めて自己実現に資するように指導の計画や方法を工夫することが重要です。

Q19 高等学校では「道徳の時間」が設定されていませんが、どのように進めるのですか。

A 高等学校においては、小・中学校と異なり「道徳の時間」が設けられていないこともあって、全体計画を作成して学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の指導のための配慮が特に必要です。

このため、高等学校における道徳教育の考え方として示されているのが、人間としての在り方生き方に関する教育であり、公民科やホームルーム活動を中心に各教科・科目等の特質に応じ学校の教育活動全体を通じて、生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探求し豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行うものとしています。

小・中学校においては、「自分自身」「他の人とのかかわり」「自然や崇高なものとのかかわり」「集団や社会とのかかわり」の四つの視点から示されている内容について、「道徳の時間」を要として学校の教育活動全体を通じて道徳教育を行うこととされていますが、この小・中学校における道徳教育も踏まえつつ、生徒の発達の段階にふさわしい高等学校における道徳教育を行うことが大切です。

Q20 道徳教育の全体計画とは何ですか。

A 高等学校で道徳教育を推進するにあたって、学習指導要領の第1章第5款の3の(4)で、「全教師が協力して道徳教育を展開するため、第1款の2に示す道徳教育の目標を踏まえ、指導の方針や重点を明確にして、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、その全体計画を作成すること。」とされ、どの学校も道徳教育の全体計画を作成することが新たに規定されました。

道徳教育の全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示し、学校として特に工夫し、留意すべきことは何か、各教育活動がどのような役割を分担するのか、家庭や地域社会との連携をどう図っていくのかなどについて総合的に示すものです。

Q21 道徳教育の全体計画を作成する目的は何ですか。

A 道徳教育の全体計画は、学習指導要領解説総則編に示されているように、次の諸点において重要な意味をもちます。

- 1 各学校の特色や実態及び課題に即した道徳教育の全体計画を作成し活用することを通して、学校のさまざまな教育の営みが豊かな人格形成につながり充実した道徳教育を展開することができます。
- 2 全体計画では、学校における道徳教育の基本方針や重点目標が明示されるとともに、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動、さらには、日常生活の指導等を通して行われる道徳教育が果たすべき役割や方向性が明らかにされます。
- 3 全体計画を全教師の協力によって作成することやその活用を図ることを通して、学校における道徳教育の方針やそれぞれの分掌による役割や機能等についての理解が深まり、学校としての一貫した道徳教育の組織的な展開が可能になります。
- 4 全体計画を公表し、家庭や地域社会の理解を得ることにより、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力が得られるばかりでなく、学校、家庭、地域社会を通じて一貫した道徳教育が可能となります。

Q22 道徳教育の全体計画に含めるとよい事項は何ですか。

A 全体計画は、各学校において、校長の方針の下に、全教師の参加と協力を得ながら創意と英知を結集して独自に作成されるものですが、その意義を踏まえると、次のような事項を含めて作成することが望まれます。

1 基本的把握事項

- (1) 教育関係法規の規定，時代や社会の要請や課題，教育行政の重点施策
- (2) 学校や地域の実態と課題，教職員や保護者の願い
- (3) 生徒の実態や発達の段階等

2 具体的計画事項

- (1) 学校の教育目標，道徳教育の重点目標
- (2) 各教科，総合的な学習の時間及び特別活動などとの関連
- (3) 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導との関連
- (4) ホームルーム，学校の環境の充実・整備や生活全般における指導の方針
- (5) 生徒との信頼関係をはぐくむ教師の在り方や教師間の連携方法
- (6) 家庭，地域社会，関係機関，小学校・中学校・特別支援学校等との連携の方針
- (7) 道徳教育の推進体制
- (8) その他，重点的指導に関する添付資料等

このようにして作成した全体計画は，家庭や地域社会の人々の積極的な理解と協力を得るとともに，様々な意見を聞き一層の改善に役立てるために，他の教育計画と同様，その趣旨や概要等を学校通信に掲載したり，ウェブページで紹介したりするなど，積極的に公開していくことが重要です。

Q23 道徳教育の全体計画を活用できるものにするポイントは何ですか。

- A
- ① 校長の方針の下に，全教師の協力・指導体制を整える。また，計画の実施及び評価・改善のための体制を確立する。
 - ② 学校の教育活動全体を通じた道徳教育の相互の関連性を明確にする。
 - ③ 生徒の現状を把握し，道徳教育の必要性を実感して，教師の意識の高揚を図る。
 - ④ 各学校の特色(校訓・校風)を生かして，重点的な道徳教育の目標，目指す生徒像を明確にし，教師の共通理解を図る。重点事項を短い標語にまとめるなどして，意識化するのも有効である。
 - ⑤ 家庭や地域社会，近隣の幼稚園や保育所，小・中・高等学校，特別支援学校，関係諸機関，企業などとの連携に心がける。
 - ⑥ 全体計画とは別に，各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの，道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの，道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを別葉にして加えるなどして，年間を通して具体的に活用しやすいものとする。

4 教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育

Q24 教育活動全体を通じて行う指導の基本方針は何ですか。

A 人間としての在り方生き方に関する教育は、学校の教育活動全体を通じて各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて実施するものです。その基本方針は以下のとおりです。

1 各教科、総合的な学習の時間及び特別活動の特質に応じた道徳性の育成を図る

各教科、総合的な学習の時間及び特別活動には、それぞれ固有の目標や内容があります。しかし、それらはすべて、生徒の豊かな人格の形成につながるものです。したがって、教育活動全体を通じて行う道徳教育では、それぞれの教育活動の特質に応じて、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性の育成に努める必要があります。

2 自らの人間としての在り方生き方についての自覚を深める指導を充実させる

Q17でも触れましたが、高等学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、人間の在り方に深く根ざした人間としての生き方に関する教育を推進することが求められています。生徒が人間としての在り方生き方について自覚を深められる指導の充実を図ることが大切です。

3 教師と生徒の信頼関係と生徒相互の人間関係の充実を図る

学校教育のあらゆる場を通して、教師と生徒の信頼関係を育み、生徒相互の人間関係の充実を図ることが大切です。さらに、各教育活動の特質に応じて生徒相互の交流を深め、互いに節度を持ち、伸び伸びと生活する中で、認め合い、助け合い、励まし合い、協力し合う態度を育てることが道徳教育として重要です。

4 豊かな体験活動の充実と他者との関わりの中で自らを振り返る指導を充実させる

学校教育全体において、各教育活動の特質に応じて、望ましい勤労観・職業観の育成を図る就業体験活動やボランティア活動、自然体験活動など、生徒の豊かな心を育てる実践的活動を一層充実させる必要があります。そして、人間理解や他者理解を深め、ともに学ぶ楽しさや自己の成長に気付く喜びを大切に、各教科等の学習においても自らの在り方生き方に直接関わることを実感できるようにするなど、道徳教育に資する学習を充実させることが大切です。

5 社会生活上のきまりや基本的なモラルについての指導を充実させる

学校の教育活動全体を通して、人間としてよりよく生きていくための道徳性を育成する視点に立って、基本的な生活習慣や社会生活上のきまり、基本的なモラルなどに関わる指導を充実させることが大切です。

Q25 各教科・科目における人間としての在り方生き方に関する教育とは何ですか。

A 各教科に属する科目における目標や内容には、生徒の道徳性の育成に関係の深い事柄が直接的、間接的に含まれています。各教科等において道徳教育を適切に行うためには、まず、それぞれの特質に応じて道徳教育に関わる側面を明確に把握することが大切です。そして、それらに含まれる道徳的価値を意識しながら指導することで、道徳教育の効果も一層高めることができます。特に、今回の改訂では、公民科の指導において人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めることを重視しており、高等学校における道徳教育の中核的な指導の機会となるため、各学校の道徳教育の目標を達成させるため計画的に取り組むことが重要です（各教科の目標と人間としての在り方生き方に関する内容は資料3を参照してください）。

Q26 各教科・科目において道德教育を展開させる留意点・工夫は何ですか。

A 各教科・科目にはそれぞれの目標があり、それに沿って計画的に授業が行われていますが、基礎・基本事項の習得、思考力・判断力・表現力等の育成は、生徒の生きる力を育み、生徒の人格形成にも影響を与えるもので、それ自体が人間としての在り方生き方教育であると言えます。しかし、効率的・効果的に道德教育と関連させるためには、教師の知識と工夫が必要になります。以下にその留意点をまとめます。

1 道德教育に関する知識の習得

高等学校においても一層の道德教育の充実が求められていることを知り、道德教育の目標をはじめその知識を身に付けておくことが大切です。また、中学校との接続を意識した道德教育を高等学校で展開させるために、「自分自身」「他の人とのかかわり」「自然や崇高なものとのかかわり」「集団や社会とのかかわり」の四つの視点から示されている内容項目を理解し、生徒の発達の段階にふさわしい高等学校における道德教育を行うことが大切です。

2 担当教科の内容と道德教育の内容との接点の検討

高等学校の各教科・科目は、中学校の内容と比べると、より専門性が高く、道德教育の内容とさらに乖離していく感があります。よって、教師が24の内容項目を理解し、意図的に授業に取り入れていかないと効率的・効果的な道德教育は望めません。各教科・科目の指導内容と内容項目の接点を検討し、各教科・科目の目標を損ねないように道德教育の内容を含めていくことが大切です。

3 マイクロインサージョンの効果的な活用

マイクロインサージョンとは、工学・技術教育において、倫理的な価値を問う話題を挿入し、技術者としての「在り方」に対する感度を高めることを目指すものです。技術者倫理教育において、倫理観の構築を目指して取り入れられている手法です。1時間の授業の指導内容に、ちょっとした道徳的な話題を挿入し、教科指導の中で道徳性の育成を図るものです。

Q27 総合的な学習の時間と道德教育の関連を教えてください。

A 総合的な学習の時間の目標は「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする」と示されています。

その具体的な内容は、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代社会の課題や、生徒が興味・関心をもって設定した課題、あるいは自己の在り方生き方や進路に関わる課題などが考えられます。生徒が、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、このような課題に取り組む過程の中で、様々な道徳的価値に触れることが期待されるとともに、道徳性を育む絶好の学習機会となりえます。

また、総合的な学習の時間が重視する、主体的に判断して学習活動を進めたり、粘り強く考え解決しようとしたりする資質や能力、自己の目標を実現しようとしたり、他者と協調して生活しようとしたりする態度は、道德教育につながるものです。

Q28 特別活動と道德教育の関連を教えてください。

A 特別活動は、目標の中で「人間としての在り方生き方」を掲げており、公民科の「現代社会」「倫理」とともに、人間としての在り方生き方に関する教育について中核的な指導の場面となります。特別活動のさまざまな教育活動においては、道德教育の目標全体を踏まえた指導を行うこととなります。

特別活動では、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事を通して、よりよい人間関係を築く力、集団や社会の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度を育成することが重視され、体験活動や話し合い活動の充実が求められています。特に、ホームルーム活動を中心として、社会の一員としての自己の生き方を探求するなど、人間としての在り方生き方に関する指導を行うことにより、道德性を育成する重要な機会となります。

Q29 キャリア教育と道德教育の関連を教えてください。

A 社会の激しい変化に流されることなく、直面する様々な課題に柔軟に対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようキャリア教育の充実が求められています。進路指導が進学指導・就職指導になりがちだったことの反省に立ち、キャリア教育は、将来の生き方の指導として組織的、体系的に行われる必要があります。

道德教育との関連においては、道德教育を進めるに当たり、望ましい勤労観・職業観の育成を図る就業体験活動やボランティア活動、自然体験活動などは、生徒の豊かな心を育てる実践的活動であるので、一層充実させる必要があるとされており、キャリア教育における、望ましい勤労観・職業観をはぐくむ就業体験活動や人間としての在り方生き方について考える時間は、道德教育としても非常に意義深いものです。キャリア教育と道德的価値の自覚を図る学習とが響き合うよう工夫することが望まれます。

Q30 道德教育を行うときに参考になる資料はありますか。

A 愛知県では平成25年3月に「明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて」という道德教育指導参考資料が各校に配付されました。教材編は「自己を見つめる」「他者を理解する」「社会と関わる」の三節に分かれています。それぞれの教材には、総合的な学習の時間やホームルーム活動で実際に活用できるように、指導案や〈授業のねらいの例〉〈まとめの例〉があります。別添のCD-Rにはデータが入っていますので、ワークシートなどを各クラスの実情に合わせてアレンジして使うこともできます。

また、道德の内容項目と学校における教育活動の関連についてまとめた資料2を添付しますので活用してください。

その他に、茨城県、埼玉県、岩手県、千葉県などでは高等学校の道德教育のためのテキストが作られています。

参考資料

- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説総則編』東山書房，2009
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説道徳編』日本文教出版，2008
- 中央教育審議会答申(平成20年1月17日)「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」『文部科学省Webサイト』
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/information/1290361.htm
- 広岡義之編著『新しい道徳教育－理論と実践－』ミネルヴァ書房，2009年
- 村田昇編著『道徳の指導法』玉川大学出版部，2008年
- 沼田裕之，増渕幸男編著『道徳教育21の問い』福村出版，2009年
- 麗澤大学道徳科学教育センター『高校生のための道徳教科書』麗澤大学出版会，2013年
- 安彦忠彦編『高等学校学習指導要領－改訂のピンポイント解説－』明治図書，2009年

道徳教育の内容項目

内容項目とは、小・中学校の道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容である。中学校では24の内容項目が示されており、「かかわり」という視点で「自分自身」「他の人とのかかわり」「自然や崇高なものとのかかわり」「集団や社会とのかかわり」の四つに分類整理されている。高等学校においては、この小・中学校における道徳教育の内容を踏まえつつ、生徒の発達の段階にふさわしい道徳教育を行うことが大切である。以下に中学校の内容項目を示す。

1 主として自分自身に関すること

視点：自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ、望ましい自己の形成を図ることに関するもの

	内容項目	詳細
(1)	望ましい生活習慣，心身の健康，節度と調和	望ましい生活習慣を身に付け，心身の健康の増進を図り，節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。
(2)	目標の実現，希望と勇気，強い意志	より高い目標を目指し，希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。
(3)	自律の精神，自主，誠実，責任	自律の精神を重んじ，自主的に考え，誠実に実行してその結果に責任をもつ。
(4)	真理愛，真実の追求，理想の実現	真理を愛し，真実を求め，理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。
(5)	向上心，個性の伸長，充実した生き方	自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

2 主として他の人とのかかわりに関すること

視点：自己を他の人とのかかわりの中でとらえ，望ましい人間関係の育成を図ることに関するもの

	内容項目	詳細
(1)	礼儀	礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動をとる。
(2)	人間愛，思いやり	温かい人間愛の精神を深め，他の人々に対し思いやりの心をもつ。
(3)	信頼・友情	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合う。
(4)	健全な異性観，男女の敬愛	男女は，互いに異性についての正しい理解を深め，相手の人格を尊重する。
(5)	自他の尊重，謙虚，寛容の心	それぞれの個性や立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解して，寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。
(6)	尊敬・感謝，報恩	多くの人々の善意や支えにより，日々の生活や現在の自分があることに感謝し，それにこたえる。

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること

視点：自己を自然や美しいもの，崇高なものとのかかわりにおいてとらえ，人間としての自覚を深めることに関するもの

	内容項目	詳細
(1)	生命尊重	生命の尊さを理解し，かけがえのない自他の生命を尊重する。
(2)	自然愛，畏敬の念	自然を愛護し，美しいものに感動する豊かな心をもち，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。
(3)	人間の弱さの克服，人間の気高さ，生きる喜び	人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて，人間として生きることに喜びを見いだすように努める。

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

視点：自己を様々な社会集団や郷土，国家，国際社会とのかかわりの中でとらえ，国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち，平和的で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性の育成を図ることに関するもの

	内容項目	詳 細
(1)	法やきまりの遵守，権利と義務，社会の秩序と規律	法やきまりの意義を理解し，遵守するとともに，自他の権利を重んじ義務を確実に果たして，社会の秩序と規律を高めるように努める。
(2)	公德心，社会連帯，よりよい社会の実現	公德心及び社会連帯の自覚を高め，よりよい社会の実現に努める。
(3)	正義，公正・公平，差別や偏見のない社会の実現	正義を重んじ，だれに対しても公正，公平にし，差別や偏見のない社会の実現に努める。
(4)	集団生活の向上，役割と責任	自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め，役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。
(5)	勤労の尊さ，奉仕，公共の福祉	勤労の尊さや意義を理解し，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める。
(6)	家族愛	父母，祖父母に敬愛の念を深め，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。
(7)	愛校心	学級や学校の一員としての自覚をもち，教師や学校の人々に敬愛の念を深め，協力してよりよい校風を樹立する。
(8)	郷土愛	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し，社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め，郷土の発展に努める。
(9)	愛国心，日本人としての自覚，文化の継承と創造	日本人としての自覚をもって国を愛し，国家の発展に努めるとともに，優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。
(10)	国際理解，人類愛	世界の中の日本人としての自覚をもち，国際的視野に立って，世界の平和と人類の幸福に貢献する。

24 の内容項目と教育活動との関連

1 主として自分自身に関すること

内容項目	キーワード	各教科, 特別活動, 分掌等との関連
(1) 望ましい生活習慣を身に付け, 心身の健康の増進を図り, 節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。	生活習慣 調和のとれた生活	特別活動 生徒指導部
(2) より高い目標を目指し, 希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。	目標・希望をもつ 達成感 達成しようとする強い意志	各教科のオリエンテーション 考査前の学習計画・考査後の反省 部活動の指導 キャリア教育
(3) 自律の精神を重んじ, 自主的に考え, 誠実に実行してその結果に責任をもつ。	自主自律, 責任感 自ら考え判断し行動する	特別活動
(4) 真理を愛し, 真実を求め, 理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。	理想の追究 目標にチャレンジ 将来の自分の在り方 真理を求める 真実を求める 探求し続ける態度	先人の伝記, 自然, 伝統と文化, スポーツなどを題材とし, 生徒が感動を覚えるような魅力的な教材 総合的な学習の時間 キャリア教育
(5) 自己を見つめ, 自己の向上を図るとともに, 個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	自己受容 自己理解 自己との対話を深める 生き方の追究 新たな自己発見 自らを省みる	キャリア教育 特別活動 公民 各教科, 授業最後のところでの振り返り グループ学習での振り返り

2 主として他の人とのかかわりに関すること

内容項目	キーワード	各教科, 特別活動, 分掌等との関連
(1) 礼儀の意義を理解し, 時と場に応じた適切な言動をとる。	礼儀 適切な言動 人間尊重の精神 外国の礼儀, 国際化 相手を思う気持ち	授業の始まりと終わりの挨拶 職員室の入室, 退室の挨拶 国際理解教育 面接指導
(2) 温かい人間愛の精神を深め, 他の人々に対し思いやりの心をもつ。	思いやりの心・親切 いたわり・励まし 助け合い・話し合い 体験と結びつけて思いやりの心を育てる 助け合いながら何かを達成	グループ学習 理科の実験など班で協力 体育のチーム 特別活動 (学校行事)
(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち, 互いに励まし合い, 高め合う。	真の友情 いたわり・励まし合い 助け合い・話し合い	特別活動, 部活動
(4) 男女は, 互いに異性についての正しい理解を深め, 相手の人格を尊重する。	異性についての理解 適切な態度	保健 男女共同参画
(5) それぞれの個性や立場を尊重し, いろいろなものの見方や考え方があつてを理解して, 寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。	個性の尊重 寛容の心 互いの立場・考え方の理解	意見を出し合いながら互いの立場や考え方を理解する グループ学習
(6) 多くの人々の善意や支えにより, 日々の生活や現在の自分があることに感謝し, それにこたえる。	尊敬・感謝 報恩 地域貢献, 社会貢献	特別活動 公民 地域奉仕活動

3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること

内容項目	キーワード	各教科，特別活動，分掌等との関連
(1) 生命の尊さを理解し，かけがえのない自他の生命を尊重する。	限りある命 生命の尊さ 生きることの意味 死の意味 生きていることへの感謝 身近な命と世界の命	生物，保健，公民 生徒指導部（薬物乱用防止教室，交通安全教室） 家庭科
(2) 自然を愛護し，美しいものに感動する豊かな心を持ち，人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。	自然のもつ美しさ 自然の神秘性 自然のエネルギー 美しいものに感動 畏敬の念	理科，数学，美術など芸術 歴史，宗教
(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて，人間として生きること喜びを見いだすように努める。	人は弱い心，醜い心を持ち，それらを克服する強い心 困難に立ち向かう	特別活動，公民 部活動

4 主として集団や社会とかかわりに関すること

内容項目	キーワード	各教科，特別活動，分掌等との関連
(1) 法やきまりの意義を理解し，遵守するとともに，自他の権利を重んじ義務を確実に果たして，社会の秩序と規律を高めるように努める。	法や規則の遵守 社会の秩序と規律 ルールを守る	規範意識等のデータを基に分析 交通安全指導
(2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め，よりよい社会の実現に努める。	公德心 モラル・マナー 連帯	環境問題
(3) 正義を重んじ，だれに対しても公正，公平にし，差別や偏見のない社会の実現に努める。	正義，強い精神力 差別・偏見のない社会 実在の人物の例 郷土の偉人	地域の人たちとの連携
(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め，役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。	様々な社会集団の存在 自己の役割と責任 集団生活の向上	褒められることで自分の存在感を自覚
(5) 勤労の尊さや意義を理解し，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める。	勤労の意義 奉仕の精神 キャリア教育 ニート，フリーター	奉仕活動
(6) 父母，祖父母に敬愛の念を深め，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。	父母，祖父母への敬愛 充実した家庭生活	家庭科
(7) 学級や学校の一員としての自覚を持ち，教師や学校の人々に敬愛の念を深め，協力してよりよい校風を樹立する。	学級や学校の一員としての自覚	ホームルーム活動 生徒会活動
(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し，社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め，郷土の発展に努める。	郷土を愛す 郷土の発展	地域の人たちとの連携
(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し，国家の発展に努めるとともに，優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。	国を愛する心 伝統と文化	公民
(10) 世界の中の日本人としての自覚をもち，国際的視野に立って，世界の平和と人類の幸福に貢献する。	国際的な視野 世界平和 人類の幸福	国際理解教育 公民

各教科の目標と人間としての在り方生き方に関する内容との関連

	関連する内容
国語科	国語による表現力と理解力とを育成するとともに、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高めることは、学校の教育活動全体で道徳教育を進めていく上で、基盤となるものである。また、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨くことは、道徳的心情や道徳的判断力を養う基本になる。さらに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てることは、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る態度を育成することなどにつながるものである。
地歴科	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深めることは、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献することなどにつながるものである。
公民科	「現代社会」では、科目の導入において、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正等について理解させ、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会に関わる現代社会の諸課題を取り上げて考察させる中でさらに理解を深めさせるとともに、科目のまとめとして議論などを通して自分の考えをまとめたり、説明したり、論述したりするなど課題を探究させる学習を行い、人間としての在り方生き方についての学習の充実を図ることとした。 「倫理」では、人間としての在り方生き方への関心を高め、その手掛かりとして先哲の考え方を取り上げて自分自身の判断基準を形成するために必要な倫理的な諸価値について理解と思索を深めるとともに、課題を探究する学習を一層重視し、論述や討論などの言語活動を充実させ、社会の一員としての自己の生き方を探求できるようにした。 なお、公民科については、「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」をすべての生徒に履修させることとしている（総則第3款の1の(1)）。
数学科	生徒が事象を数学的に考察し筋道を立てて考え、表現する能力を高めることは、道徳的判断力の育成にも資するものである。また、数学を積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てることは、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てることに資するものである。
理科	自然の事物・現象を探究する活動を通して、地球の環境や生態系のバランスなどの事象を理解させ、自然と人間との関わりについて認識を深めさせることは、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成につながるものである。また、目的意識をもって観察、実験を行うことや、科学的に探究する能力を育て、科学的な自然観を育成することは、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度を育てることに資するものである。
保健体育科	運動の実践は、技能の獲得とともに、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとする、チームの合意形成に貢献しようとするなどの公正、協力、責任、参画などに対する態度の育成にも資するものである。集団でのゲームなど運動することを通して、粘り強くやり遂げる、ルールを守る、集団に参加し協力する、といった態度が養われる。また、健康・安全についての理解は、健康の大切さを知り、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善することにつながるものである。
芸術科	芸術を愛好する心情を育て、感性を高めることは、美しいものや崇高なものを尊重することにつながるものである。また、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことは道徳性の基盤の育成に資するものである。
外国語科	外国語を通じて、我が国や外国の言語や文化に対する理解を深めることは、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながるものである。
家庭科	生活に必要な知識と技術を習得することは、望ましい生活習慣を身に付けるとともに、勤労の尊さや意義を理解することにつながるものである。また、家族・家庭の意義を理解させることや主体的に生活を創造する能力などを育てることは、家族への敬愛の念を深めるとともに、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよりよくしようとするにつながるものである。
情報科	情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させることは、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を身に付けさせ、情報社会に参画する態度を育成することにつながるものである。

各学校においては、道徳教育の充実が今回の改訂においても重視されていることを踏まえ、全教師の連携協力のもと、年間指導計画に基づき、教育活動全体を通じて人間としての在り方生き方に関する教育が一層具体的に展開されるよう努める必要がある。

「国語総合」における道德的実践力の育成

―指導資料「上手に自己表現しよう！～アサーショントレーニング～」の活用―

愛知県立瀬戸高等学校 教諭 勝見ひろみ

1 はじめに

平成 21 年に告示された高等学校学習指導要領では学校教育全体を通じて発達段階に応じた道德教育に取り組むことが示された。そこでは、各教科や総合的な学習の時間、特別活動において人間としての在り方生き方に関する教育を推進することが求められている。

また、国語科における道德に関する教育の展開として、国語による表現力と理解力とを育成するとともに人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高めることは、学校の教育活動全体で道德教育を進めていく上で基盤となるものであると示されている。

そして、本校では、校訓「大心（玉のように心を磨き、他者を排除せず表裏なく、人を思いやる人間）」の下、道德教育の全体計画の重点目標の一つに「他を思いやる気持ちなどの人間尊重の精神を養う」と掲げている。

これらの点を踏まえ、今回は本校の国語科の授業の中で、愛知県教育委員会が作成した道德教育指導参考資料『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて―』の中の教材「上手に自己表現しよう！～アサーショントレーニング～」の活用を試みた。

2 生徒の実態

本校は本年度創立 90 周年を迎えた全日制普通科の伝統校である。現在、1・2年生7学級、3年生6学級、合計 20 学級の学校である。男女比はほぼ半々である。大学・短大への進学率は約 60%、専門学校への進学率は約 30%、就職等が約 10%である。校地が大変広く野球専用グラウンドをはじめ各種グラウンドが充実している。部活動は、運動部、文化部ともに活動が盛んである。緑が多く小高い丘の上に立つ立地条件も影響しているのか、生徒は比較のおおらかで、人懐っこい者が多い。通学区域は瀬戸市内の他、隣接する尾張旭市、その西の名古屋市守山区などが主である。

本校第 1 学年の生徒のうち、報告者が国語総合（現代文分野）を担当する 3 学級に対し、単元の学習に入る前に自分のコミュニケーション能力について意識調査を行ったところ次のような回答であった。

①あなたは他の人とコミュニケーションが上手できますか。※117 名回答

1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない
6 人 (5%)	42 人 (36%)	48 人 (41%)	21 人 (18%)

半数以上の生徒は現在の自分のコミュニケーション能力に自信をもてていない状態である。その理由を尋ねた「② あなたが①のように思う理由を書いてください」には「4 そう思わない」と「3 あまりそう思わない」の理由として次のように記述している。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| ・人見知りで口べただから。 | ・自分の意見をしっかり伝えられないから。 |
| ・他人と話すのが苦手だから。 | ・仲のいい子としか上手く話せないから。 |
| ・何も考えずにしゃべっているから。 | ・一方的にしゃべってしまうから。 |

一方、「1 そう思う」と「2 ややそう思う」の理由としては、「誰とでも気軽に話せるから」という記述が圧倒的に多く、「相手のことを考えてものを言うので相手を傷つけることもほとんどないから」など、他者を意識したコミュニケーションをしているという内容の記述はごく少数であった。

このようにほとんどの生徒は自分自身も尊重し相手のことも尊重する上手な自己表現ができておらず、適切なコミュニケーションの方法を身に付けさせることが必要な状況にあると考えられる。

3 実践のねらい

国語総合（現代文分野）において、評論(一)「空気を読む」（『精選国語総合』大修館書店）の読解を通して現代のコミュニケーションの在り方について問題意識を高め、級友や部活動仲間などの関係における理想的な自分自身のコミュニケーションとはどのようなものか考えさせる。

本文では、相手に合わせるばかりで、自分の意見や考えを自由に発言することを放棄してしまうことの問題点が指摘されているが、その逆の自己中心的な発言も問題であることを押さえない。自分の気持ちや意見を素直に表現する一方で相手のことも尊重するアサーティブな自己表現に触れ、ロールプレイを体験することで、人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高める。

4 実践の方法

(1) 対象と実施する時期

- ・第1学年，平成25年9月，10月実施

(2) 教育課程上の位置付け

- ・国語科「国語総合」にて実施

(3) 『明日を拓く』から使用する教材

- ・第2章 第2節 他者を理解する「上手に自己表現しよう！ ～アサーショントレーニング～」

この教材は相互の関係性を大切にした自他尊重のコミュニケーションの方法を実践的に身に付けさせることをねらいとしたものである。

(4) 展開の工夫

ア 「アサーティブ度チェック」プリントを用いた自己の現状認識

イ ディフェンシブ（受身的）な自己表現，アグレッシブ（攻撃的）な自己表現，アサーティブな（自他尊重の）自己表現の三者の相違を知るためのロールプレイの観察

ウ アサーティブな（自他尊重の）自己表現を身に付けるためのロールプレイの体験

(5) 振り返りシートの活用

- ・「上手に自己表現しよう！ ～アサーショントレーニング～」の振り返りシートを一部変更

(6) アンケートによる生徒の意識の変化の把握

- ・自己のコミュニケーション能力とよいコミュニケーションに対する意識アンケート

ア 事前（単元学習の前）アンケート（資料1）

イ 事後（単元学習の後）アンケート（資料2）

5 学習指導案

1 教科・科目	国語・国語総合（第1学年，4単位）		
2 単元名	評論(一)「空気を読む」 教科書『精選国語総合』（大修館書店） 指導資料『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めてー』（愛知県教育委員会）第2章第2節 他者を理解する「上手に自己表現しよう！～アサーショントレーニング～」		
3 単元の目標	【教科の視点】 ・ 叙述に即して筆者の主張を読み取る。 ・ 現代のコミュニケーションの在り方に対する問題意識を高める。 【道徳の視点】 ・ 自分の考えや気持ちを確認し，相手に配慮しながらそれを素直に伝える。 ・ 相手の考えや気持ちを理解する姿勢を示す。		
4 単元の指導計画（全4時間） ※1時間：50分			
	担当時間	指導内容	
	1次（3時間）	・ 評論文を，構成に注意しながら読み取らせる。 ・ 筆者の主張を踏まえ，自己のコミュニケーションの問題点を考えさせる。	
	2次（1時間） ※本時	・ アサーショントレーニングを通してよりよいコミュニケーションの在り方を学ばせる。	
5 本時の展開			
	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (10分)	1 活動のねらいを理解する。 2 「アサーティブ度チェック」（プリント）の質問に答え，現在の自分の自己表現の特徴を知る。	○「解説」を用いて，自己表現の三つのパターンを紹介する。 ①ディフェンシブ（受身的）な自己表現 ②アグレッシブ（攻撃的）な自己表現 ③アサーティブな（自他尊重の）自己表現	〈ねらいの説明〉 「アサーティブ度チェック」（プリント）
展開 (30分)	1 自己表現の三つのパターンを，ロールプレイの具体例を通して理解する。 2 三人のグループを作り，ロールプレイでアサーションを体験する。 (1) ロールプレイの状況例の	○指導者と指名された生徒，または生徒二人がロールプレイを例示。 ○状況例は実情に合わせ，生徒にとって身近な内容にする。 ○自己主張役は相手と自分の双方を	※具体例のシナリオ 「アサーティブ

	<p>中からそれぞれが自己主張役をするものを決める。残りの二人は相手役と観察役をする。</p> <p>(2) 2分間でロールプレイを行う。</p> <p>(3) 次の2分間でロールプレイを振り返る。観察役→相手役→自己主張役の順でよかった点と改善点を言う。</p> <p>(4) 役割を交代し、全員が順番に自己主張役を行う。</p>	<p>尊重する気持ちで主張するようにさせる。</p> <p>○相手役は簡単に妥協しないようにするが、残り30秒の合図で妥協し、解決するようにさせる。</p>	<p>な自己表現 ロールプレイ」 (プリント)</p>
<p>終結 (10分)</p>	<p>1 「振り返りシート」を用いて本時の活動を振り返る。</p> <p>2 グループ内・クラス内でシェアリングを行う。</p>	<p>○「振り返りシート」の3, 7, 8を中心に話し合うように指示する。</p>	<p>振り返りシート</p> <p>〈まとめ〉</p>

6 学習活動と道徳の内容項目（中学校の分類による）との関連

- ・自分の考えや気持ちを確認し、相手に配慮しながらそれを素直に伝える。

1-(3) 主として自分自身に関すること（自律の精神、自主、誠実、責任）

- ・相手の考えや気持ちを理解する姿勢を示す。

2-(5) 主として他の人とのかかわりに関すること（自他の尊重、謙虚、寛容の心）

7 留意事項

- ・時には「自己主張をしない」ことを決断することもアサーティブな（自他尊重の）自己表現であることも理解させるようにする。

※ ロールプレイの具体例シナリオ

【状況】 昼休み、購買でパンを買おうと順番を待っていたあなたの前に、他のクラスの人が割り込んで来ました。前に並んでいるのがその人の友達のように。あなたは昼放課中に委員会の仕事があり、ちょっと焦っています。

① ディフェンシブ（受身的）な自己表現

あなた：あー、ここに入るんですか？

相手：友達がいるから入れて。

あなた：でもー、みんな並んでたし…

相手：一人くらい変わらないよ。

あなた：……。 (これ以上何も言えず、下を向いてしまう。)

② アグレッシブ（攻撃的）な自己主張

あなた：ちょっと！割り込まないでよ！

相手：いいじゃない、一人くらい。

あなた：私、委員会の仕事もあって急いでるのよ！

相手：私だって急ぎの用があるわ。

あなた：みんな並んでるのよ！ずるしないで！

相手：まじ、ウザッ！（と言って後ろに並ぶ。）

③アサーティブな（自他尊重の）自己表現

あなた：あ、ごめん、ちゃんと後ろに並んでくれる。

相手：急いでるから入れて。

あなた：私も委員会の仕事があるから急いでるんだ。あなたも急ぎの用があるかもしれないけど、並んでくれるとうれしいな。

相手：ごめん、わかった。（と言って後ろに並ぶ。）

6 実践のまとめと考察

(1) 導入

ア 「アサーティブ度チェック」プリントを用いた自己の現状認識

前時の終結で考えた『準パブリック』な関係における理想的な自分自身の在り方について復習し、理想的な自己表現としてアサーティブな自己表現を紹介して本時のねらいの説明とした。次に「アサーティブ度チェック」プリント（資料3）を用いて生徒が現在の自分のアサーティブ度を確認した。生徒は一項目ずつ丁寧に検討して回答している様子だった。

生徒が回答した後に、『明日を拓く』の教材「上手に自己表現しよう！ ～アサーショントレーニング～」に記された下記の「解説」を用いて、自己表現の三つのパターンを説明した。

【解説】

「いいえ」の数はいくつありましたか。10以上あった人は日常生活で人間関係がうまくいかないと感じている人かも知れません。「いいえ」と答えた項目は、あなたが自己表現できていないか、あるいは苦手な場面です。ディフェンシブ（受身的）な表現になっている場面だといってよいでしょう。ディフェンシブ（受身的）な表現とは、自分の言いたいことを言わない、または言い損なってしまう表現です。この表現は一見控えめで、相手を尊重しているように感じますが、自分の能力を発揮できないばかりか、時に自己表現できなかったことで相手に不満や恨みをもつことになり、相手と良好な関係は結ぶことができません。

項目⑨～⑳の「はい」と答えたものの中で、相手に対する否定的な感情と腹立たしさから攻撃的に表現してしまうものはないでしょうか。あったら、「◎」にしてみましょう。「◎」がついた場面では、自分の意見や気持ちを大切にしている一方で相手の意見や気持ちに考慮していない可能性があります。アグレッシブ（攻撃的）な表現になっている場面だといってよいでしょう。

アグレッシブ（攻撃的）な表現とは自分の言い分を何としても通そうとする表現です。異なる意見に耳を貸すことがなく、相手を無視したり仲間はずれにしたりします。これが習慣になると周囲から敬遠され孤立していきます。

「はい」と答えた数が多く、「◎」が付かない人はアサーティブな（自他尊重の）表現ができています。アサーティブな（自他尊重の）表現とは、相手も自分も大切にしたいバランスのとれた自己表現です。これから行う実践を通して、自分が受身になってしまいがちな場面や相手に攻撃的になってしまいがちな場面で、どのような自己表現を心がければよいか考えていきましょう。

前頁の解説に加えて、ディフェンシブ（受身的）な表現について教科書の「空気を読む」もそれに当たることを再度説明し、生徒に教科書の文章との関連を意識させた。また、⑨～⑳の「はい」の項目の見直しでは、具体的にどのような感情であるか、例えば⑨では「なぜ気付かないの。助けてくれてもいいんじゃないの」といった思いであることを伝え、アグレッシブ（攻撃的）な表現になっている場面のイメージをつかみやすくした。説明を聞いて、生徒の多くは「はい」と答えた項目のいくつかに「◎」をつけていた。

(2) 展開

ア ディフェンシブ（受身的）な自己表現，アグレッシブ（攻撃的）な自己表現，アサーティブな（自己尊重の）自己表現の三者の相違を知るためのロールプレイの観察

展開では、指導者と指名した生徒，または生徒二人が具体的なシナリオを用いてロールプレイを例示し、ディフェンシブ，アグレッシブ，アサーティブの三つの自己表現の違いを強調した。同じ状況でも表現の仕方で相手との関係性が全く変わることにも気づき，次のアサーティブな自己表現の練習に役立てることをねらいとした。生徒はよく注目して見ている（写真1）。

イ アサーティブな（自己尊重の）自己表現を身に付けるためのロールプレイの体験

ロールプレイの方法と状況が六つ載ったプリント（資料4）を各自に1枚配付し，方法を説明した。自己主張役は相手と自分の両者を尊重した表現をすることとした。相手役は時間の限り妥協せず，「でも」「だって」の言葉を用い抵抗するように注意を与えた。三人の班分けは席の近い者同士とした。プリントの「状況6」は教科書に出てきたテレビ番組を巡っての会話となっていることも付け加えた。



【写真1】ロールプレイの観察

開始するに当たって順番を決めたり，活動の手順の理解が不十分であったりしたため戸惑いもあったようだが，開始後はどの班も順調にロールプレイを行っていた。合図が入るまでの1分30秒は意外に長く言葉が出てこずに困っている生徒もいた。振り返りの2分間は簡単な感想になってしまう班が多く，積極的に改善点などは出ていないようだった（写真2）。

(3) 終結

ア 活動の振り返りとシェアリング

各自で振り返りシート（資料5）に記入する形式で本時の活動を振り返った。丁寧で積極的な姿勢での記入が多かった。残り時間が少なかつたため不十分ではあったが，班内で数項目のシェアリングは実施できた。

(4) 振り返りシートの記述から

ア アサーティブ度チェックの結果について

Q アサーティブ度チェックの結果をどう思うか



【写真2】ロールプレイに取り組む様子

- ・「いいえ」の数が多くて11個もあった。自分は断ることが苦手だと思った。
- ・「いいえ」はなかったけれど◎はあったのでそこは考えないといけないと思う。
- ・「いいえ」があるので「はい」にしたいと思いました。「はい」は続けられるようにしたいです。
- ・「いいえ」の数が「はい」の数とあまり変わらないから「はい」の数を増やしていきたいです。
- ・「いいえ」よりは「はい」の方が多かったけれど一番多かったのはどちらでもないだった。その時の場面を想像した時、やはりその場の雰囲気や人にもよるのかなって思った。

自己主張するのに自分が苦手とする場面（「いいえ」とした項目）や、自己主張はできているがアグレッシブになっている場面（◎の項目）を各々が把握できたようだ。また、現状を知った上で、「はい」を増やしたいと前向きに考えている生徒も多い。他には「どちらでもない」が多く、状況ごとにできたりできなかったりという生徒も何人かいたようだ。全般的にはこの結果を前向きに捉え今後にかかそうという姿勢が見られた。

イ 自己主張について

Q うまく自己主張できたか ※115人回答（無回答2人）

1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない
18人 (16%)	58人 (50%)	35人 (30%)	4人 (4%)

うまく自己主張ができなかったと感じている生徒は、次の質問、「難しいと感じたことはどのようなことですか」で次のような点を挙げている。

- ・私自身あまり自己主張せず、まわりに流されてしまう方なので主張することが難しかった。
- ・自分の言いたいことがうまく言えなくて、相手の言っている言葉におされて、うまく自己表現できなかった。
- ・相手役が結構強くきたからそれに柔らかく返すところ。
- ・相手の意見に対して否定する意見を、どうやって相手を嫌な気分にならずに伝えればいいのか難しかった。
- ・相手の気持ちを気遣うところが大変。言葉がすぐに出てこなかった。
- ・相手に納得してもらえそうな自己表現をすることは難しかった。

日頃、自己の意見を述べることに慣れていない生徒は相手を説得することに難しさを感じたようだ。多くの生徒は、相手の気持ちを尊重しながら自分の気持ちを伝える際の表現の難しさに気付いている。

ウ 自己主張役をした時の振り返り

Q 相手の気持ちを理解しようとしたか。 ※116人回答（無回答1人）

1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない
30人 (26%)	65人 (56%)	18人 (15%)	3人 (3%)

Q 明確で誠意のある言葉の使い方ができたか。 ※116人回答（無回答1人）

1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない
16人 (14%)	53人 (46%)	46人 (39%)	1人 (1%)

Q 表現・態度・ジェスチャー等、豊かに表現できたか。 ※117人回答

1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない
14人 (12%)	46人 (39%)	44人 (38%)	13人 (11%)

相手の気持ちを理解しようと努める姿勢はできていたが、イの質問の回答としても書かれていたとおり、どのような言葉を用いたらよいのか戸惑いを感じていたり、適切な言葉が出てこなかったりするなど表現力に課題があることが分かる。

エ 相手役・観察役をした時の気付き

- ・客観的に見ると会話がしっかりとできていて自己表現がしっかりとできていた。
- ・相手の気持ちを少しうかがいながらも自分の意見をしっかりと言い納得させていた。
- ・相手役が強く言うと自己主張役もアサーティブでなくなってしまうがちだと感じた。
- ・相手の気持ちを考えるというところがあまりできていなかった。
- ・少し言葉が攻撃的になってしまっていた。
- ・アサーティブに自己表現された時、相手に対して全然嫌な気持ちにならなかった。
- ・話をするとき嫌そうな顔になったり身振り手振りがついていたりしておもしろいと思った。
- ・ジェスチャーの有無で受ける感じが全く違うことが分かった。

アサーティブな自己表現ができていた生徒、相手に流されてできなくなってしまう生徒、自己主張に力点を置きすぎて相手を尊重しない表現になってしまっていた生徒がいたことが相手役・観察役をしたときの振り返りの記述から分かる。アサーティブな自己表現をされると受ける感じがとてもよいことに相手役をすることで気付いた生徒もいた。また、言葉の他に表情やジェスチャーも自己表現の大切な要素になることも分かったようだ。

オ 今日の活動の感想

- ・相手の意見を尊重しつつ自分の意見を言うことは大変だと思いました。
- ・相手を気遣うことがこんなにも大変だとは思っていなかった。
- ・アサーティブな表現をすることは難しいと思ったが、これからは意識していこうと思った。
- ・相手も自分も尊重するためには上手く言葉を見つけないといけない。
- ・アサーティブに自己表現することは難しいけれど、人間関係はより良くなるんだと思った。
- ・アサーティブな感じにみんながなったらもっとクラスが良くなると思う。
- ・自分はディフェンシブな表現になってしまっているの、できるようになっていきたいと思いません。
- ・自分も含め意外とアグレッシブ（攻撃的）な自己表現になっていることが多いことに気付いた。
- ・自分が苦手な場面で、少しでも正直な自分の意見を言おうと思えた。
- ・やってみてこの活動はアサーティブ度を高める効果があると実感できました。

アサーティブな自己表現は意外に難しいと感じているが、相手のことを尊重しつつ、自分の気持ちや意見を大切にすることは良好な人間関係を構築していく上で重要であることが理解できた生徒が多かった。また、実生活においても前向きにアサーティブな自己表現を心がけていきたいという記述が多く見られた。本時の活動の意義を感じてくれた生徒もいた。

7 成果と課題

(1) 実践の成果

ア アンケート結果から

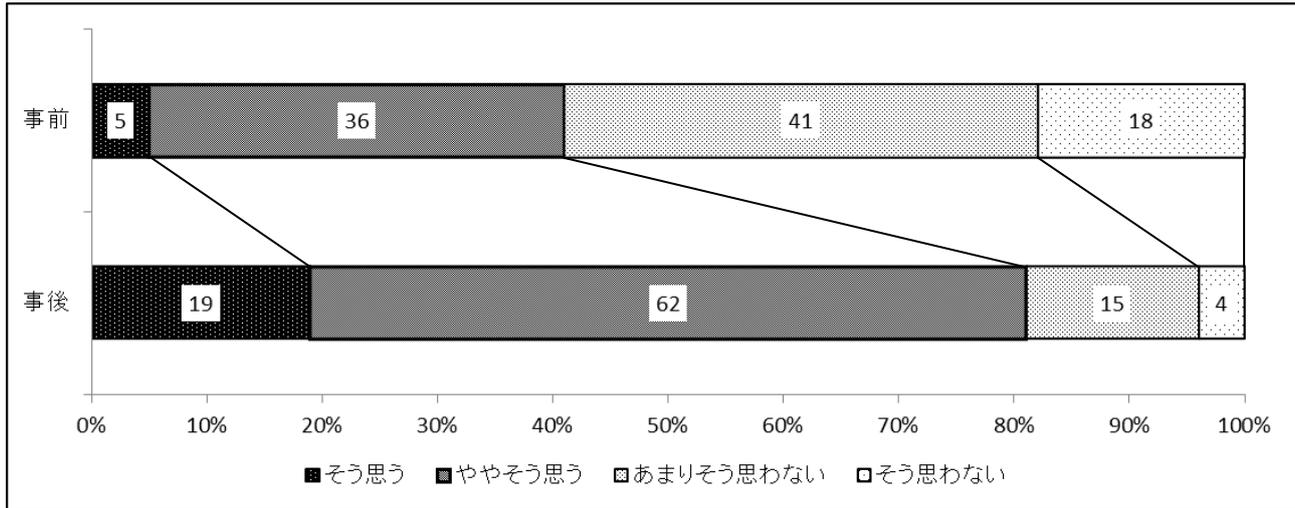
(事前アンケート) ①あなたは他の人とコミュニケーションが上手くできますか。 ※117人回答

1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない
6人 (5%)	42人 (36%)	48人 (41%)	21人 (18%)

(事後アンケート) ①今回の授業を受けて、あなたは今後他の人と上手くコミュニケーションができていますか。 ※117人回答

1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない
22人 (19%)	73人 (62%)	18人 (15%)	4人 (4%)

アンケート項目①の事前・事後比較



自分のコミュニケーション能力について自信をある程度持っていると考えられる「1 そう思う」「2 ややそう思う」の回答が事前アンケートでは41%に留まっていたが、事後アンケートでは81%まで跳ね上がっていることは注目に値する。今回実施したアサーショントレーニングが生徒たちに自己のコミュニケーションについて振り返り、その能力を高めるよい機会になったと考えてよいだろう。逆に自信がもてない生徒は59%から19%に激減しており、実際の体験を通して自分にもできそうだと実感した生徒も多かったと言える。

個別の生徒の変容を3例以下に示す。

◎事前アンケート「4 そう思わない」→事後アンケート「2 ややそう思う」に変わった女子生徒

<p><事前アンケート①の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 人見知りで口べただから。また、自分の意見もしっかり伝えられないから。感情表現が余り豊かでないから。 <p><事後アンケート①の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の授業でいろんな場面を見たり、体験できたりしたものを生活の場で生かすことができそうだから。

◎事前アンケート「3 あまりそう思わない」→事後アンケート「1 そう思う」に変わった女子生徒

<p><事前アンケート①の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 仲がいい子にはできると思うが、クラス全体で考えると話さない子もいるから。 <p><事後アンケート①の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 練習したような場面に合ったときの対応の仕方が少し分かったから。
--

◎事前アンケート「4 そう思わない」→事後アンケート「2 ややそう思う」に変わった男子生徒

＜事前アンケート①の理由＞

- ・話すことが下手で更に自分からあまり話しかけようとせず、他人から憎まれることを知らずに平気で言うてしまうことがあるから。

＜事後アンケート①の理由＞

- ・最初はできるかどうか不安だったけれどやっていくうちにできるようになったから。

これらの生徒の記述から実際のトレーニングが自信につながっていることが分かる。「相手のことも尊重し自分も尊重するアサーティブな自己表現を心がけましょう」と説明するだけでなく、たった2分間のロールプレイではあるが実践が実感を呼び起こし、言葉で伝え合い良好な関係を結ぶコミュニケーションに対する前向きな気持ちを養うことができたと思われる。

今回のアサーショントレーニングへの取組のよさは予想以上のものであった。直に話すよりもメールで話すことに慣れている生徒たちにとって、直に相手とうまく話すことは大きな課題であり、その意識が生徒自身の中にもあったためと考える。

イ 道徳の視点について

(ア) 自分の考えや気持ちを確認し、相手に配慮しながらそれを素直に伝える

本活動を通して自分の気持ちや意見を確認して誠実に相手に伝えることの大切さを生徒は実感している。教材「空気を読む」にあるように「準パブリック」な場面で他者に単純に同調し合わせるのではなく、他者を尊重しながらも自ら考え、主張するのが理想的であると認識できたと思う。このことは、自主性の確立と自己主張に対する責任の自覚につながるものだと考える。

(イ) 相手の考えや気持ちを理解する姿勢を示す

良好なコミュニケーションはお互いの存在を肯定的に受け止めようとする思いが基盤となって成立するものである。今回行ったアサーショントレーニングは自分も大切にしながら、相手のことも尊重する表現を身に付けるものであり、他の人に対する思いやりの心を育む活動である。生徒は相手を尊重する姿勢を失わないようにしながら自分の意見を述べることを難しいと感じつつ本活動に一所懸命に取り組むことができた。また、それを日常生活の中でも実践していく意欲と自信をもつことができた。

(2) 今後の課題

本実践は多くの生徒にとって効果的なものであったが、トレーニング後もアンケートの回答が「4 そう思わない」「3 あまりそう思わない」のままである生徒や、「3 あまりそう思わない」から「4 そう思わない」へ変わってしまった生徒もいた。理由の記述をみると、「人と話すときは何でもないことでも緊張してしまいます」（事前）から「これからも変わらないだろう」（事後）となっているものや、「人と話すのが苦手です人と余り関わりたくない」（事前）から「やはり上手くできそうにない」（事後）となっているものがあつた。また、「仲の良くない子には一切話さない」（事前）から「ディフェンシブになってしまい上手く話せない」（事後）という記述もあり、日頃から他者と関わりコミュニケーションをとることに抵抗やプレッシャーを感じている生徒の一部には効果がなかったようである。このようにコミュニケーションに問題を抱えている生徒には別のアプローチを考えなければならない。アサーショントレーニングはコミュニケーション能力を育成するための万能な方法ではないと教師が認識して、他の方法を模索することも必要である。

また、アサーティブな自己表現をしたいという気持ちはもっているが、実際には言葉がなかなか出てこず思いが伝わらないというもどかしさも感じた生徒が多くおり、言葉による表現力を磨く機会を

多く設けなければならないと感じた。

そして、今回の学習で身に付けた、「互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力」を日常の場面でどう発揮できるか、特別活動や他の教科における言語活動の場面でいかに応用できるか、その後の生徒たちの活動にどのように影響をもたらすことができているのか、今後も見えていく必要がある。

一時間の授業展開について、やや時間不足の感があったので最後の振り返りと話し合いによるシェアリングも時間を十分とれるような工夫が必要である。

8 おわりに

変化の激しい現代社会において、いかなる場面でも他人と協調しつつ自律的に社会生活を送るために必要な人間としての実践的な力、豊かな人間性をもつこと、すなわち「生きる力」を育むことが今回の学習指導要領のねらいである。このねらいに基づき高等学校では学校の教育活動全体を通じて「人間としての在り方生き方に関する教育」を推進することが求められている。

今回実践を試みた国語科における教科の目標と人間としての在り方生き方に関する教育との関連について、高等学校学習指導要領解説総則編には「国語による表現力と理解力を育成するとともに、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高めることは、学校の教育活動全体で道徳教育を進める上で、基盤となるものである。また、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨くことは、道徳的心情や道徳的判断力を養う基本になる。さらに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てることは、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る態度を育成することなどにつながるものである」と示されている。今回の実践は、特に「言葉で伝え合う力を高めること」に重点を置いて行ったものである。

なお、今回の実践は、愛知県教育委員会が作成した道徳教育指導参考資料『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて一』の活用例として一時間の授業を行っているが、教科における道徳実践は必ずしも一時間全てを使う必要はなく、マイクロインサージョンの手法を取り入れ、挿入的に道徳的な話題を少し盛り込むことを基本として考えることもできる。

一つの教材を通して、教科の目標と併せて道徳の視点による目標を立てること、そして教える側がいかに道徳的な視点を意識して授業を行うのか、今、高等学校の教育活動に求められているのはこの点である。今後、高等学校における道徳教育、「人間としての在り方生き方に関する教育」への理解を広げていくことは大きな課題である。今回の実践がその一助になることを願っている。

参考文献等

○文部科学省『高等学校学習指導要領』平成21年3月公示

【資料1】

アンケート（事前）

1年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

① あなたは他の人とコミュニケーションが上手くできますか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

② あなたが①のように思う理由を書いてください。

③ よいコミュニケーションとはどのようなものだと思いますか。（箇条書きで記入してください）

.....

【資料2】

アンケート（事後）

1年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

① 今回の授業を受けて、あなたは今後他の人と上手くコミュニケーションができそうですか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

② あなたが①のように思う理由を書いてください。

③ よいコミュニケーションとはどのようなものだと思いますか。（箇条書きで記入してください）

アサーティブ度チェック

次の質問について「はい」「いいえ」「どちらでもない」のいずれかに○を記入し、それぞれの数を合計してください。

		はい	いいえ	もない どちらで
①	あなたは人を褒めることができますか。			
②	自分の考えや気持ちを把握していますか。			
③	愛情を相手に素直に示すことができますか。			
④	自分の長所や成し遂げたことを人に言うことができますか。			
⑤	初対面の人に会ったとき、自分の方から声をかけますか。			
⑥	見知らぬ人たちの会話の中に気楽に入っていくことはできますか。			
⑦	話し合いの場で、意見を言うことができますか。			
⑧	人から褒められたとき素直に対応できますか。			
⑨	友人に助けを求めたり、ちょっとした頼みごとをすることができますか。			
⑩	友人と異なった意見や感じをもっているときそれを言うことができますか。			
⑪	自分の好みや行動が人と違っても気にせずにいられますか。			
⑫	自分が知らないことや分からないことがあったとき、説明を求めることができますか。			
⑬	自分の意見や行為を批判されたとき、感情的にならずに受け答えできますか。			
⑭	不当な要求をされたとき、それを拒むことができますか。			
⑮	長電話や長話のとき、自分から切る提案ができますか。			
⑯	お店で、注文した物と違う物が出されたとき、交渉できますか。			
⑰	議論をしていて自分の意見が通らないとき、怒ったり命令したりせず話し合いを続けられますか。			
⑱	人の好意がわずらわしいとき、断ることができますか。			
⑲	友人から助けを求められたとき、できない場合は断ることができますか。			
⑳	家族や友人同士で食事をしているとき、みんなが発言できるように配慮しますか。			
合計				

アサーティブな自己表現とは・・・自分も相手も大切にしたい自己尊重の自己表現です。自分の考えや気持ちを自分自身が捉え、それを正直に伝えてみようとする一方で、伝えた後に相手の反応を受け止めようとするコミュニケーションの方法です。

アサーティブな自己表現 ロールプレイ

【方法】① 2分間でプレイ（残り 30 秒で合図）

② 2分間で振り返り（良かった点・改善点）

〈自己主張役〉

- ・自分の考えや気持ちを確認し、相手に配慮しながらそれを素直に伝える。
- ・相手の考えや気持ちを理解する姿勢を示す。

〈相手役〉

- ・合図があるまでは妥協しない。
- ・残り 30 秒の合図で妥協し、解決する。

【状況 1】（断る）

修学旅行の最後の夜、先生の見回りがあった後、友達が夜通しトランプをして遊ぼうと言い出しました。あなたは疲れているので寝たいと思っています。友達にどうやって断りますか。

【状況 2】（断る）

ある日の授業後、友達に「明日はM子の誕生日だからプレゼントを買いに行くのにつき合ってよ」と言われました。あなたは部活動をさぼって買い物につき合う気にはなれません。また、明日までの宿題も気になっています。友達にどうやって断りますか。

【状況 3】（頼む）

買って間もないCDを友達に貸してあげました。ところが、なかなか返してくれません。二度ほど催促しましたがいまだに持ってきてくれません。友達にどうやって返してもらいますか。

【状況 4】（頼む）

定期考査間近の金曜日、あなたは世界史のノートが不十分なことを思い出しました。授業中に居眠りをしたことがあったからです。友達にノートを借りようと思います。あなたはどのように頼みますか。

【状況 5】（謝る）

あなたは友達と二人でバスケットボール部のマネージャーをしています。公式戦の日の朝、あなたは発熱して会場に行けなくなってしまいました。友達と分担してあった仕事も果たすことができません。あなたは友達にどのように謝りますか。

【状況 6】（意見を言う）

クラスメイトの何人かで雑談をしていると、昨日のテレビ番組の話題になりました。あなたはあまりおもしろくなかったと思いますが、他の人たちはおもしろかったと言っています。意見を求められた時あなたはどのように意見を言いますか。

振り返りシート

()組 ()番 氏名 ()

- 1 あなたのアサーティブ度チェックの結果はどうでしたか(「いいえ」の数など)。また、その結果について、どのように思いましたか。

- 2 ロールプレイで自己主張役をしたとき、うまく自己主張ができましたか。
【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

- 3 ロールプレイで自己主張役をしたとき、難しいと感じたことはどのようなことですか。

- 4 自己主張役をしたとき、相手の気持ちを理解しようとしてしましたか。
【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

- 5 自己主張役をしたとき、明確で誠意のある言葉の使い方ができましたか。
【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

- 6 自己主張役をしたとき、表現・態度・ジェスチャー等、豊かに表現できましたか。
【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

- 7 相手役・観察役をしたときに気付いたことを書いてください。

- 8 今日の活動で感じたことや気付いたこと、考えたことを書いてください。

「家庭基礎」における道德的実践力の育成

—指導資料「赤ちゃんポスト」の活用と言語活動の工夫—

愛知県立豊橋商業高等学校 教諭 小島 佳世

1 はじめに

今次学習指導要領において、道德教育は学校の教育活動全体を通じて行うこととされている。各教科でもそれぞれの特質に応じて、適切な道德教育を行い、生徒の道德的実践力を育成することが求められている。家庭に関する科目には、道德の内容項目に関連する学習内容が多くある。例えば、「自分自身に関すること」については、自立、マナー、モラルなど、「他の人とのかかわり」については、家族に関すること、地域に関することなど、「集団や社会とのかかわり」については、消費者としての在り方、環境に配慮する消費行動などの学習内容がそれにあたる。それらの教科としての学習内容に道德の内容を意図的・計画的に含めていくことが課題となっている。

そこで、愛知県教育委員会が平成 25 年 3 月に発行した道德教育指導参考資料『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて—』の教材「赤ちゃんポスト」を家庭科の単元構想に組み込み、教科における道德教育を実践することとした。

2 生徒の実態

本校は、1 学年 4 学科 7 クラスの創立 107 年の伝統をもつ商業高校である。男女比は 1 : 4 となっており、女子生徒が多く在籍している。生徒は精神的に落ち着いており、素直で生き生きと高校生活を送っている。部活動では弓道部女子が今年度夏のインターハイにおいて 41 年ぶりの優勝を果たすとともに、電卓部においても個人の部で全国優勝するなど、学校をあげてその快挙を喜んでいる。その他の部活動も盛んで、毎年県大会、全国大会へと出場する部活動もある。ここ数年の進路状況は、60% 程度が就職、40% 程度が進学となっている。

本校は校訓「以信為本」（信を以って本と為す）を掲げ、国家及び社会の有為な形成者として、心身ともに健康で、知性にあふれ、時代の進展に対応できる教養と高い技術を備えた、「自主性に富み、信用・責任を重んずる人」「協調性に富み、礼節・勤労を重んずる人」「創造性に富み、真摯・実行を重んずる人」のような職業人の育成を図っている。また、生徒が「思いやりの心を育成する」ことを本年度の重点目標の一つとして、道德性・社会性の向上を実現するために教科、学年、分掌などの立場で取り組んでいる。就職、進学どちらの進路を選択するにせよ、本校在学中に社会生活に必要な道德性を養ったり人間としての在り方生き方を考えさせたりすることが必要である。

3 実践のねらい

第 3 学年で履修する家庭科「家庭基礎」（3 単位）の単元「保育と子どもの福祉」の中に、『明日を拓く』の教材「赤ちゃんポスト」を組み込んで道德の視点を含めた単元構想の工夫をすることにより、自他の生命を尊重する気持ちや、他の人を思いやる気持ちを高めるとともに、自分と異なる意見や考え方を大切にしようとする寛容の心と謙虚な態度を育むことをねらいとした。

4 実践の方法

(1) 対象と実施する時期

- ・第3学年，平成25年9月実施

(2) 教育課程上の位置付け

- ・家庭科「家庭基礎」の単元「保育と子どもの福祉」にて実施

(3) 『明日を拓く』から使用する教材

- ・第3節 社会と関わる「赤ちゃんポスト」

教材「赤ちゃんポスト」は「赤ちゃんポスト」に関する2枚の新聞記事を基にしている。1枚の記事は、不妊症に悩む夫婦が乳児院で赤ちゃんとの出会い、「赤ちゃんポスト」から乳児院へ入所した経緯と子育て体験記，そして育てた子どもに出生を知らせることへの不安，最後に「赤ちゃんポスト」の必要性を訴える内容となっている。もう1枚の記事は、「赤ちゃんポスト」に預けられた子どもの身元探しと，赤ちゃんを預けた理由，「赤ちゃんポスト」を運営する側の意見が書かれた記事である。

この教材は「赤ちゃんポスト」の2枚の新聞記事を通して，里親の心情，「赤ちゃんポスト」の是非について知ることができ，命の尊さや他の人を思いやる気持ちについて改めて考えさせることができる効果的な教材である。

(4) 展開の工夫

新聞記事前半（『明日を拓く』p.93，本稿では「資料1」と記す）から，「赤ちゃんポスト」の存在と役割を知り，このポストに子どもを預ける母親の気持ちと，育ての親が子どもに事実を告知するときの気持ちについて，個々に考えさせる。

次に新聞記事後半（『明日を拓く』p.94，本稿では「資料2」と記す）から，「赤ちゃんポスト」の是非についてグループ討議と発表を行う。その過程で，いろいろな考え方や意見を尊重する姿勢を身に付けさせるとともに，他者の意見から自分の意見を深めることもできることを気付かせる。

授業展開を円滑にするためワークシート（資料3）を準備するとともに，生徒が積極的にグループ討議を行い発表ができるように，司会者用と記録（発表者）用のプリントを準備した。司会者用プリント（資料4）を読むことでグループ討議が進行できるようにし，司会者が討議内容を最後にまとめられるようにした。また，記録（発表者）用プリント（資料5）は，発表者がそのまま発表できるように記録欄を工夫した。

(5) アンケートによる生徒の意識の変化の把握

本単元の前後における生徒の意識変化を調査するために事前及び事後アンケートを実施した。事前アンケート（資料6）は本単元が始まる直前に実施し，事後アンケート（資料7）は今回の道徳授業実践後に実施した。

ア 事前アンケート

- (ア) 「命」についての意識
- (イ) 「生命尊重」についての意識
- (ウ) 「人間愛（人との関わり）」についての意識
- (エ) 「子どもに関する社会問題」についての意識

イ 事後アンケート

- (ア) 「命」についての意識の変化
- (イ) 「生命尊重」についての意識の変化

(ウ) 「人間愛（人との関わり）」についての意識の変化

(エ) グループ討議についての意識

5 本時の展開

1 教科・科目	家庭・家庭基礎（第3学年，3単位）		
2 単元名	保育と子どもの福祉 教科書『家庭基礎 自立・共生・創造』（東京書籍） 指導資料『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて－』（愛知県教育委員会）第2章第3節 社会と関わる「赤ちゃんポスト」		
3 単元の目標	【教科の視点】 <ul style="list-style-type: none">・乳幼児が心身ともに健やかに成長するためには，親としての自覚と責任を持ち，愛情をもって子どもを産み育てることが必要であることを理解する。・乳幼児が健やかに発達するために必要な子育て環境の整備において，親や家族，地域や社会が果たすべき役割について理解する。 【道徳の視点】 <ul style="list-style-type: none">・命はかけがえのないものであることを理解し，命の尊さについて考えることができる。・人は他の人とのかかわりの中で生きることを理解し，思いやりの心をもつことができる。・いろいろなものの見方や考え方があることを理解し，他の人に学ぶことができる。		
4 単元の指導計画（全10時間） ※1時間：50分			
配当時間	指導内容		
1次（1時間）	子どもの触れ合いから学ぶ		
2次（3時間）	子どもの育つ力		
3次（4時間）	親としてともに育つ		
4次（2時間） ※本時： 2時間目	健やかに育つ環境づくり ・子どもの権利と社会福祉 ・子どもを守る社会の責任（本時）		
5 本時の展開			
	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (8分)	1 前時学習内容の復習 2 本時の目標と学習内容を知る。	○前時の学習を振り返りながら，「生存権」に関する法律や条約について知らせる。 ○「赤ちゃんポスト」の〈ねらい〉を読み，本時の目標と学習内容を伝える。	ワークシート1 〈ねらい〉

展開 (12分)	1 母親や里親の気持ちを考える。	○「赤ちゃんポスト」について簡潔に説明し、新聞記事前半(資料1)を読ませる。 ○記事を読んだ感想をまとめさせる。(5分程度) ○母親や里親の事情や心情について、ワークシートに沿って考えさせる。	<補足説明> ワークシート2(1) ワークシート2(2)
(20分)	2 赤ちゃんポストの是非について考える。 3 赤ちゃんポストの是非や在り方について、グループで話し合い、発表する。 4 グループでの話し合いと発表後の赤ちゃんポストについての自分の考えをまとめる。	○新聞記事後半(資料2)を読ませる。 ○赤ちゃんポストの是非について各自で考えさせる。(5分程度) ○グループでの話し合いの進め方、司会・書記の役割及び配慮事項を全体に伝える。 ○4～5名のグループに分け、司会と書記を決める。 ○各自で考えたことを基に、グループで話し合わせる。(10分程度) ○生徒の話し合いの様子を観察し、必要に応じて進行を支援するとともに、取り組みの様子を記録する。 ○グループ内で出た意見をグループの代表者に発表させる。	ワークシート2(3) <司会用資料> <記録用資料> ワークシート2(4)(5)
(5分)	5 自分自身が親となったとき子どもへの接し方について「命の尊厳」の視点から自由に記述する。	○グループでの話し合いやクラスでの発表を聞き、参考になった考え方や気持ちの変化などを自由に書かせる。	ワークシート3
終結 (5分)	1 本時のまとめ 2 自己評価	○「赤ちゃんポスト」の<まとめ>を読み、「命の尊厳」について考えさせる。 ○話し合いと発表について、良かった点を中心にコメントする。 ○本時の自己評価を記入させる。	<まとめ> <自己評価>

6 学習活動と道徳の内容項目(中学校の分類による)との関連

- 命はかけがえのないものであることを理解し、命の尊さについて考えることができる。

3-(1) 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること(生命尊重)

- 人は他人とのかかわりの中で生きることを理解し、思いやりの心をもつことができる。

2-(2) 主として他の人とのかかわりに関すること(人間愛、思いやり)

- いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、他の人に学ぶことができる。

2-(5) 主として他の人とのかかわりに関すること(自他の尊重、謙虚、寛容の心)

7 留意事項

【グループでの話し合いについて】

- ・グループでの話し合いの前に、司会者・書記の役割及び配慮事項を全体に伝える。
- ・グループの司会者には、司会進行マニュアルを配付する。
- ・グループの記録係には、記録・発表用紙を配付する。
- ・グループの話し合いが進まない時は、教員が司会者をサポートする。
- ・自分と反対の意見であってもしっかり聞くことを伝える。

【話し合い（司会）の配慮事項】

- ・一つの結論にまとめようとしない。
- ・意見の発表の仕方は、賛成か反対かの立場を伝えた上で、その理由を述べることとする。

【グループの代表者によるまとめ発表について】

- ・まとめ発表の型を示しておく。

「〇〇グループの発表をします。

賛成は〇人で、理由は・・・・・・などでした。

反対は△人で、理由は・・・・・・などでした。

また、・・・・・・などの意見や疑問点もありました。以上です。」

【「赤ちゃんポスト」の<ねらい><補足説明><まとめ>】

<ねらい>

熊本市のある病院が「このとりのゆりかご」という名称で赤ちゃんポストを開設しています。2011年9月までの5年間で、81名もの幼い命を受け入れてきましたが、赤ちゃんポストへの疑問の声も出ています。

今日は、赤ちゃんポストで預かった赤ちゃんを育てている里親に関する新聞記事を読んで、多様な視点から、赤ちゃんポストの是非やこれからの在り方について議論をしてもらいたいと思います。

<補足説明>

赤ちゃんポストとは、親が育てられない赤ちゃんを匿名で預けることができる窓口です。熊本市の慈恵病院が2007年5月10日に開設しました。2011年9月末までに男児40人、女児41人の計81人が預けられ、うち64人は生後1か月未満でした。障害のある子も8人いました。市によると、81人のうち、特別養子縁組や里親委託で新たな家庭で生活しているのは37人です。27人が施設に入所し、ほかは実の親らが育てるなどしています。

判明した親の居住地は、九州が26人、関東が18人、近畿、中部がそれぞれ8人でした。

<まとめ>

今回は、赤ちゃんポストの是非や今後の在り方について多様な視点から考えてもらいました。これまでとは違った立場からも命の大切さを捉え直すことができたのではないかと思います。グループでの話し合いや全体発表では、様々な意見を聞くことができました。この学習を通して、命の尊厳ということについて、皆さん一人一人が改めて深く考えてもらいたいと思います。

6 実践のまとめと考察

(1) 授業展開

ア 母親や里親の気持ちを考える

「資料1を読んであなたはどう思いましたか」という問いに対しての生徒の記述には次のようなものがあつた。

○生徒の感想

- ・赤ちゃんポストに預けた理由は様々で、手放したくなくても金銭面の問題などで預ける人や軽い気持ちで「いらぬから」という理由で預けた人などいると思う。手放したくなかつた人の気持ちは、計り知れないほどの悲しみと罪悪感があると思う。「いらぬ」という理由の人の所でも子どもが育てられたとして虐待などされるようならポストへ預けた方が子どもにとってよいと思う。
- ・事情は、障害を持った子がいやだとか、育てる事が大変だとかいろいろあると思います。もちろん預けるお母さんも何も感じないとは思いません。辛いことだつたと思うし、こんなことをしている自分に情けないと思うと思います。ですが、突然赤ちゃんが生まれるわけではなく、ずっと前からわかつていたことだから、しっかり責任をもってほしいと思いました。子は親を選べません。



【写真1】生徒の記述の様子

「子どもを手放す時の苦しみと預けた子どもが幸せになってほしい」「命を救うという観点から、『赤ちゃんポスト』があつて良かった」と考える生徒が多かつた。その反面、親としての責任や子どもをつくることへの無計画さに対する批判も一部にはあつた。

「実の母親が『赤ちゃんポスト』に預けた時の事情と気持ちは、どのようなものだつたと思いますか」という問いに対しての生徒の記述には次のようなものがあつた。

○生徒の感想

- ・子どもを育てられない母親は、本当は絶対自分で育てていきたいと思つていると思うので、預けた時とても悲しいと同時に自分の不甲斐ない感じ、人生で一番辛い気持ちになつたと思う。涙が止まらなかつたと思うと同時に、その赤ちゃんがいつか絶対に幸せになって欲しいと願つたと思う。
- ・大きく分けて二つに分けられると思います。やむを得ずどうしても育てられないために預ける人は申し訳ない気持ちと、新しい環境で楽しく暮らしてほしいと考えます。自分には無理だからとか自分の都合で預ける人はやつと楽になるとか、結構投げやりな気持ちになつていると思います。

預けたときの事情は、「経済的理由」「障害者」「自分が病弱で育てられない」などの言葉が多く見られた。預ける時の気持ちについては、預ける親の心の葛藤が多く感想に見られた。

「里親がその子に血のつながりがなことを伝えるときには、どのような気持ちになつたと思いますか」という問いに対しての生徒の記述には次のようなものがあつた。

○生徒の記述

- ・子どものことをすごく傷つけてしまうと悲しい気持ちになると思います。ですが、真実を教えないことは、その子をだますような気持ちにもなってしまうので、こういうことは辛くても本当のことを言うことが大切だと思いました。血はつながってなくても、それを乗り越えて本物の家族になることもできると思います。

里親の心情として、「複雑、不安、これまでの子育てに対して否定されてしまうのでは」という思いを抱きつつも、告知については「真実を伝える方がよい」と考えている生徒が多かった。血のつながりだけが家族とは言えず、家族とは何かを改めて考えさせられたようである。

イ 「赤ちゃんポスト」の是非について考える

「資料2を読み、あなたは『赤ちゃんポスト』の存在についてどのように思いますか。賛成、反対の文字のどちらかを○で囲み、そう判断した理由を書きましょう」という問いに対しての生徒の記述には次のようなものがあった。

○「賛成」とした生徒の記述

- ・匿名でなければ捨てられた命もあったかもしれないと思うと、赤ちゃんポストがあつてよかつたと思う。生まれて間もないのに、生みの親と幸せに生きる権利を失った赤ちゃんには、必ずもう一度幸せになる権利を与えられるべきだと思う。赤ちゃんポストは必要だと思う。

○「反対」とした生徒の記述

- ・産んでしまえば「赤ちゃんポスト」に預ければいいやという無責任な親も出てきてしまうと思います。子どもに罪はないのに、親に捨てられた、親が分からないという事実はとても辛いものであり、その後の成長にも大きく影響が出ると思います。里親の中には、子どもを持ちたくてもてず、養子が持ててうれしい家庭もあるかもしれないが、そのような家庭が捨てられた子どもの数だけあるとも思えないし、それらが子どもを捨てていい理由にはならないとわたしは思います。

資料1の新聞記事の内容に影響されたと見られる意見が多い。「匿名」という文字に惑わされている生徒が多いように感じた。

ウ 「赤ちゃんポスト」の是非や在り方について、グループで話し合い、発表する

グループ討議は1グループを4～5人程度とし司会者・記録者を指定したため、比較的取りかかりもよく主体的に討議に参加していた。自分とは異なる意見には真剣に耳を傾け、心を動かされるものがあったようだ。討議の展開が「命」を救うことに固執した傾向が見られ、安易な理由で結論を導き出しているグループもあった。司会者は**資料4**を活用した。

グループ討議の最後の1分で司会者にグループの意見をまとめさせたため、発表する生徒にとっては記録の確認ができ、発表を聞く生徒にとっても分かりやすかつたと思われる。また、反対意見が一人しかいなかった班では、発表者ではなく反対意見をもつ生徒本人が発表したところもあり、自分の考えをクラス全員に知ってもらいたいという熱意もうかがえた。記録と発表には**資料5**を活用させた。

また、グループ討議中において、話し合いがうまく進められない、話し合いの内容が分からない、質問があるなどの場合、適宜指導助言を行った。その具体的内容は次のとおりである。



【写真2】グループ討議後の発表

○「赤ちゃんポスト」の是非に関する教師の助言

- ・「資料2の内容だけで赤ちゃんポストの是非を判断するのか」という質問があったため、資料1や「赤ちゃんポスト」に関する説明も参考にし、様々な角度から考えるよう指示した。
- ・「赤ちゃんポスト」について「反対者はいるのか」という質問があったため、「賛否どちらもある」と説明した。

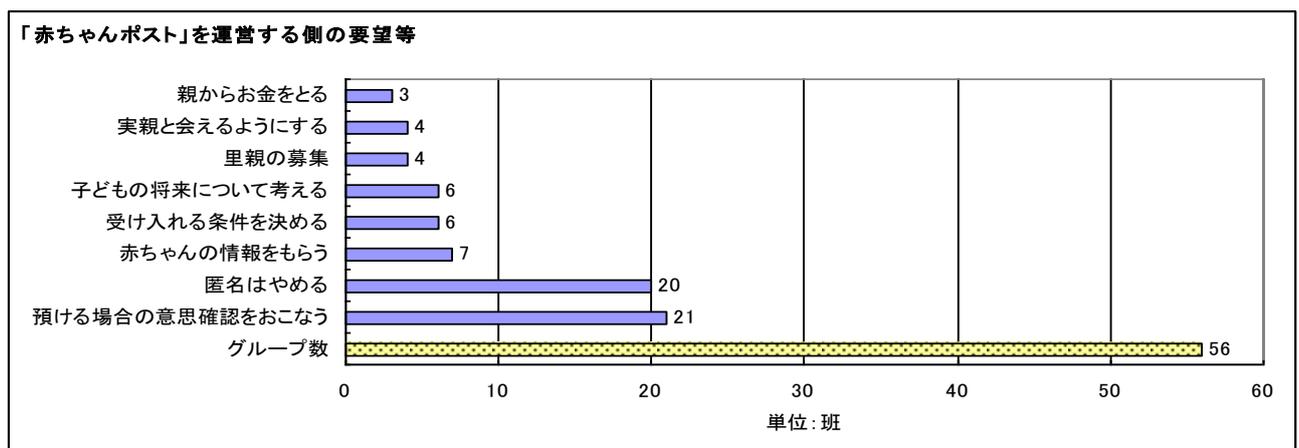
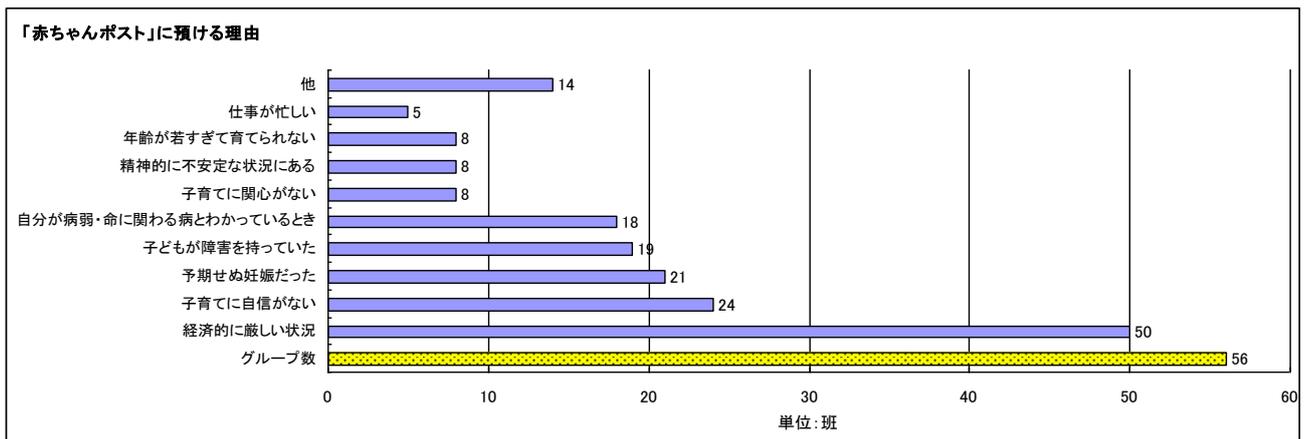
○「赤ちゃんポスト」に預ける状況に関する教師の助言

- ・預ける理由について金銭的理由が多かったため、「単に経済的に困難という理由の人ばかりではないらしい」と伝えた。

○「赤ちゃんポスト」を運営することに関する教師の助言

- ・今ある「赤ちゃんポスト」の設置状況について具体的にどのようなになっているのか、という質問に対して、「屋外から受け入れ窓口の扉を開けると保育器が設置されていて、赤ちゃんが入るとセンサーが感知し院内にブザーで知らせるしくみになっている」と説明した。
- ・「赤ちゃんポスト」には何もメッセージはないのか、という質問に対して、「もう一度引き取りたいと思ったら連絡してほしい」というメッセージがあることを説明した。

全56グループがまとめた意見を内容別に集計すると、次のようになった。



「赤ちゃんポスト」に預ける理由としては、50グループが「経済的に厳しい状況」を挙げた。また、「赤ちゃんポスト」を運営するとしたら、「預ける場合の意思確認を行う」ことや「匿名はやめる」ことを挙げたグループが多かった。

エ グループ討議後の考え方や意識の変化について記述する

「グループで話し合いをして、代表者の発表を聞いた後で、あなたは『赤ちゃんポスト』の存在についてどのように思いますか。賛成、反対の文字のどちらかを○で囲み、そう判断した理由を書きましょう」という問いに対しての生徒の記述には次のようなものがあった。

○「賛成」とした生徒の記述

・やっぱり私は命よりも大切なものはない！と思うので、ポストは必要だと思います。もちろん、産んだ親には責任があるから育てるべきだと思うし、実の親から愛情を注いでもらうのが一番よいとは思いますが、世界には色々な人がいて、それぞれ事情がある場合もあるから、命を守ることが優先だと思います。もし金銭の問題など、ある程度最初から分かっていることは、子どもをつくる前に自分の状況を考え責任を持って行動してほしい!!

○「反対」とした生徒の記述

・大人は育てられないとか子どもがほしいとか都合がよいかもしれません。しかし、子どもの立場から考えてみると本当の親に捨てられた、裏切られたと思うってしまうと思うし、一生大きな傷として残ってしまうと思います。また、血がつながっていなければ里親を親だと思えない子もいると思います。子どもの幸せを一番に考えるなら、私は反対です。

生徒の意見の多くに、「赤ちゃんポスト」の賛否に関わらず「人命尊重」を最優先し、子どもの幸せを願う気持ちには共通するものがみられた。賛否を決めた要素として、「命」や「子の幸せ」がキーワードとなっていた。

オ 振り返り

「生命の尊重」という道徳的価値についての考えを深めさせるため、「あなた自身が親となったとき、どのように子どもと接しようと思いますか。『命の尊さ』という視点から、今の自分の気持ちを自由に書きましょう」という問いを与え、各自に記述させた。その記述の多くは、「親として子どもに対して愛情を持って育てていきたい」「いろいろな体験をさせながら、命の大切さを教えていきたい」「自分の産んだ子供は何があっても自分で責任を持って育てていくのはいけない」などの決意であった。生徒の記述には次のようなものがあった。

○生徒の意見

・僕が親になったらまずよいことと悪いことの判断力を身に付けさせると思います。子どもの頃はまだ言葉もわからないと思うけど、そこはしっかりと教えていきたいです。この授業を通して命の大切さや尊さなどいろいろなことを改めて思い知らされました。今までの考えや思っていたことがグループで話し合うことで新たな意見が加わり、いままでの考えや思いが少し変わった気がします。これから生きていく中でいろいろ思うことはあると思うけど、命だけは大切にしたいです。

・すごくかわいがってしまう気がします。産まれてきてくれた命をしっかり守りたいです。今生きていて自分たちがひとつの命を産むって考えると、本当にすごいことだなと思いました。その命を捨ててしまう人にびっくりします。たくさんの愛を注いでいきたいと思います。自分も両親から愛情をたくさんもらってきました。なので、自分の子どもにも愛を注いでいきたいです。ダメなことはダメと叱ってあげられる親になることが理想です。まだあまり想像はできませんが楽しみです。

(2) 事前・事後アンケートからみた心の変化 (資料8)

事前アンケートは、「命」「生命尊重」「人間愛(人との関わり)」「子どもに関する社会問題」について

て記述方式で実施した。

事後アンケートは、事前アンケートと同じ「命」「生命尊重」「人間愛（人との関わり）」について単元の学習前後の生徒の考えの変化を調べることとした。また、「グループ討議」に関する項目を追加した。

ア 「命」について

「(1) 『命』からイメージすることは何ですか」の問いに対し、事前アンケートでは「生きること」「生きていること」「かけがえのない大切なもの」「無くてはならない尊いもの」「一つしかなく守るべきもの」と答えた生徒が多かった。

事後アンケートから見られる心の変化の例を示す。

○心の変化が高まったと答えた生徒の考え

- ・大切であるということに変わりはないけど、「育てる」側から考えると責任が必要になるものだと思った。
- ・人と人をつなぐもので、何よりも大切。
- ・何よりも大切なものと思っていましたが、それに加えて、皆で守っていくものだと思うようになりました。

○あまり心の変化がないと答えた生徒の考え

- ・やはり命は大切。自分の命は自分で守る。自分の産んだ命も自分で守る
- ・大切なもの。それは変わらないと思う。でも命は自分だけのものではないと思う。
- ・命があるから楽しいことや悲しいことを感じることができる。

「命」が大切なものであることは理解ができています。大切なものであるためにどのようにそれを守り育てるのかという、将来に向けた生徒たち自身の課題も発見したように思われる。

イ 「生命尊重」について

「(2) 『生命尊重』とはどういうことだと思いますか」の問いに対しては、事前アンケートでは「重視するもの」「軽く考えず粗末にしないこと」と答えた生徒が多かった。

事後アンケートから見られる心の変化の例を示す。

○心の変化が高まったと答えた生徒の考え

- ・尊重しようという考え方と、どんな時でも思いやって個々を大切にしていこうとする行動が大切だと思った。
- ・生命は子どものものであれ、おとなのものであれ平等に尊いものだと思います。
- ・生命が第一ということではなく、一つの命に対してよく考えなければならないことだと思うようになりました。

○あまり変化がないと答えた生徒の考え

- ・生命尊重とはどこに住んでいる誰でも、平等な命の重さがあり、尊重すべき存在だと思う。
- ・生まれたすべての生命はとても尊いものだから、すべての生き物が自由を持ち、自分のために生きればよいと思う。そして、他の人のために余裕ができたならサポートしてあげる。
- ・前よりもっと命を大切にしたいと思った。

生徒の記述から、自分だけではなく、誰でもが等しく大切な命であり、「命」を互いに思いやる気持ちや行動の必要性を感じたことが分かる。

ウ 「人間愛」について

「(3)『人間愛』とはどのようなものだと思いますか」の問いに対しては、事前アンケートでは「人とのつながり」「人を思いやること」「人に優しくすること」「人を愛すること」と答えた生徒が多かった。事後アンケートから見られる心の変化の例を示す。

- 生徒の心の変化が高まったと答えた生徒の考え
- ・人と人が協力し合い生まれるものであるが、そういう場合でない時も些細なことでも気遣う環境があることによって生まれるものでもあることが分かった。
 - ・人は誰かから愛されることで生きていることを実感できるのだと思いました。
 - ・愛情があって育った人は、また誰かに愛情をあげられると思う。
- 心にあまり変化がないと答えた生徒の考え
- ・親や友達に愛情をもらったり、与えたりできるのは実はとてもすばらしいことだと思った。
 - ・人は愛がなければ心も体も成長できないから、とても大切だと思う。
 - ・人間愛が生まれるかどうかは、その人が育ってきた環境により変化が出てくる。

事前アンケートと比較すると、それぞれの言葉に対し、表現方法に変化が出てきていることから、新聞記事を読み、人の意見を聞いていく過程で、生徒自身のなかに心を揺さぶられるような心の動きがあったと判断できる。また、「愛」の考え方や表し方は生育環境によって変化することに気付いたようである。

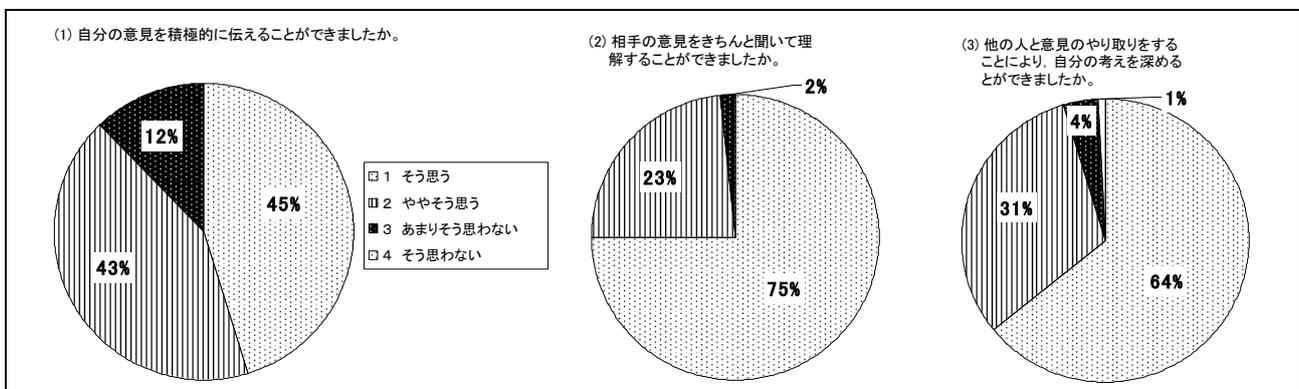
エ 「子どもに関する社会問題」について

社会問題に関する事前アンケートでは、「いじめ」「虐待」「待機児童」が多く、「赤ちゃんポスト」をあげた生徒は、246人中7人であった。テレビや新聞等によく話題になっている問題を挙げた生徒が多かった。

オ グループ討議について

グループ討議に関する事後アンケートでは、「自分の意見を積極的に伝えることができましたか」という問いに対して 88%の生徒が肯定的な回答をした。また、「相手の意見をきちんと聞いて理解することができましたか」という問いに対して 98%の生徒が肯定的な回答をした。さらに、「他の人と意見のやり取りをすることにより、自分の考えを深めることができましたか」という問いに対して 95%の生徒が肯定的な回答をした。

事後アンケート グループでの話し合いについて



「他の人と意見のやり取りをする場合の大切なこと」についての質問では、「互いの意見を否定せず尊重し理解する」「人の意見は最後までしっかり聞く」と書いた生徒が多く、グループ討議、全体発表、振り返りにより、他の人の意見から学ぶ態度が見られた。

7 成果と課題

(1) 実践の成果

ここでは、道徳的視点から見たそれぞれについての成果と考えられる点について記述する。

ア 「生命の尊重」について

生まれた命を大切に、愛情を持って育てることが必要であるという考えを前提とし、「命」をつくり出すことへの責任や、親としての子を守り幸せにするための使命感を持つことの必要性を認識できたようである。

また、保育の学習において「生命の尊重」を取り上げたことから、親としての命、子の命の大切さと、その命を守るための責任をどのように果たす必要があるかを考えさせることができた。

イ 「人間愛、思いやり」について

今回の授業を通し、親としての責任の重大さに気付き、自信をもって子育てができるまでには多くの事を学ぶ必要があることを知ったようである。その中に、親としての子どもへの関わり方や接し方に関し、愛情が特に大切であることを確認した生徒や発見した生徒が多かった。また、自分がこれまで親の愛情を受けたことへの感謝の気持ちを表現した生徒もいた。

また、里親の愛や、赤ちゃんポストを運営する人たちの愛についても考えることができた。単なる思いやりだけでは、人の命を守ることはできない大変貴重な愛であることを理解した生徒もいた。

ウ 「個性尊重、寛容・謙虚」について

グループ討議や発表の中から、いろいろな人の意見や考えを生々の声で聞くことができ、自分では発見できなかったことや思いもしなかったことなどに気付かされ多くの収穫があったようである。振り返りや授業の感想を見ると、人の意見を前向きに捉え、自分の意見を深めることができたように思われる。「人の意見を聞く機会や、論議できるような学習を増やしてほしい」というものもあった。自分の狭い考え方の中で結論を出すのではなく、人の意見を素直に受け入れ判断し、自分の意見と併せて結論を導き出すことの大切さに気付いた生徒も多く見られた。

(2) 今後の課題

ア グループ討議・発表に関する課題

今回のグループ討議を10分とし、発表時間を授業終了までの可能な限りの時間を当てたが、すべてのグループの発表ができなかった。人の意見を聞くことは大事なことであるとともに、自分の考えをより深めることにもつながる。特に、反対の意見については自身の中の考えと比較思考するには大きな意味があったため、発表の時間は十分に確保することが必要であった。

また、グループ討議時において、グループ討議や発表時間中の観察から気付いたことは以下のとおりであり、課題でもある。

- ・記録者がメモをとるのに忙しいようであった。
- ・話し合いの時間が少ないようであった。
- ・時間の関係で全ての班の発表ができなかったため、意見が最後まで聞けなかったことに対して残念に思っている生徒もいた。
- ・最初の発表者によって全体的にしまりのない発表になってしまった。
- ・話し合いに取り掛かるまでに時間がかかり、意見を出し合うころには話し合いの終了時間となってしまう、十分にまとめられない班もあった。
- ・反対意見が一人の場合、強く発言できない場合が見受けられた。押しの強い生徒のペースで討論

が進んでいくグループもあった。

- ・調子に乗って、緊張感がないグループもあった。

イ 単元全体を通しての課題

今回のグループ討議で使用した教材は、「保育」の単元における重要なテーマを含み、自分の考えや人の意見を聞くことで、いろいろな考えや発想があることを学ぶよい機会となった。

「赤ちゃんポスト」の教材から、産まれた、授かった「命を守る」という究極的観点で道徳的思考を評価すれば、これに関しては意識が高く重要性が認識されており、学習目標は達成できたと言える。しかし、一部の生徒の意見にもあったが、家族計画の段階から「命」は考えるべきものであり、親としての「命」に対する責任についても改めて考えさせることが教科としての課題である。

保育の単元で「命」を取り上げる場合、親になったことを前提とした学習を展開するが、単元の目標に関する知識を身に付けさせるだけでなく、その知識を生かすために必要な情報を集めさせ、いろいろな立場の人がどのような意見や疑問を持っているか知り、自分の考えを深めることができる活動の更なる工夫が必要である。

8 おわりに

「家庭基礎」の学習内容の中に指導資料「明日を拓く」を活用した授業を試みたことで、生徒は今まで自分では気付かなかったことや、知らなかったことを人から聞いたり、知らされたりして、自分のものの考え方や見方に偏りがあることを発見できたり、考えを深めたり、意欲的に物事を考えるきっかけとなるなど、前向きな思考ができるようになったようである。

家庭科は、道徳的視点で物事を考えたり、判断したりする学習内容が多いが、道徳を意図的に意識した授業展開をすることはなかった。生徒は、生育環境を基に思考・判断するため、自己の考えに固執し狭い経験や少ない情報の中で判断をすることが多い。今後は今回のように、道徳的視点と言語活動を取り入れつつ、教科の学習が実生活におけるさまざまな状況を適切に判断した行動に結び付くような指導の在り方について研究していきたい。

また、指導資料「明日を拓く」の資料やワークシートは、学校の実態・扱う教科・単元に合わせて自由に編集し直して使用することができるため、道徳的視点を踏まえた単元構想・授業展開を工夫することで効果的に教科の中で活用することができる。部分的使用でも道徳的視点での学習は可能であるため、今後も有効に活用していきたいと考えている。

参考文献等

- 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成 21 年 3 月公示

【ねらい】 乳幼児にも「生存権」があることを知り、命の尊さについて考えることができる。

1 「生存権」に関連する法律や条約である。()に語句を入れよう。

- 「日本国憲法」第25条 [(), 国の社会的使命]
 - ① すべて()は、健康で文化的な最低限度の生活を営む()を有する。
- 「児童福祉法」第一章 総則
 - 1 すべて国民は、児童が()とともに健やかに生まれ、且つ、()されるよう努めなければならない。
 - 2 すべて児童は、ひとしくその()を保障され、()されなければならない。
- 「子どもの権利条約」第6条

締約国は、すべての児童が()に対する固有の権利を有することを認める。
 締約国は、児童の()及び()を可能な最大限の範囲において()する。

2 「赤ちゃんポスト」に関する記事を読み、考えてみよう。

(1) 資料1を読んであなたはどのように思いましたか。

Blank box for writing answers to question 1.

(2) 実の母親と里親のそれぞれの立場で考えてみよう。

① 実の母親が「赤ちゃんポスト」に預けた時の事情と気持ちは、どのようなものだったと思いますか。

Blank box for writing answers to question 2-1.

② 里親がその子に血のつながりがないことを伝えるときには、どのような気持ちになるとと思いますか。

Blank box for writing answers to question 2-2.

(3) 資料2を読み、あなたは「赤ちゃんポスト」の存在についてどのように思いますか。賛成、反対の文字のどちらかを○で囲み、そう判断した理由を書きましょう。

賛成

反対

理由

Blank box for writing reasons for approval or disapproval.

(4) グループでの話し合いの内容や代表者の発表についてメモしておこう。

Blank box for taking notes on group discussion.

(5) グループで話し合いをして、代表者の発表を聞いた後で、あなたは「赤ちゃんポスト」の存在についてどのように思いますか。賛成、反対の文字のどちらかを○で囲み、そう判断した理由を書きましょう。

賛成

反対

理由

Blank box for writing reasons for approval or disapproval.

3 【課題】 あなた自身が親となったとき、どのように子どもと接しようと思いますか。「命の尊さ」という視点から、今の自分の気持ちを自由に書きましょう。

Blank box with horizontal lines for writing a response to the task.

自己評価をしてみよう

A : できた (思う) B : 普通 (わからない) C : できない (思わない)

- 1. 興味関心をもって学習に取り組むことができた。 A B C
- 2. 学習目標が達成できた。 A B C
- 3. ワークシートの記入が時間内にできた。 A B C
- 4. 今後の生活に生かすことができる。 A B C
- 5. グループでの話し合いに積極的に取り組むことができた。 A B C

学習後の感想

Blank box for writing post-learning reflections.

「赤ちゃんポスト」司会進行用（グループ内の名簿番号が一番早い人）

司会者	組	番	氏名
-----	---	---	----

- 1 赤ちゃんポストの是非について賛成か反対を言ってから、その理由を述べて下さい。
（発表は、自分から右回り）

賛成 _____ 名
<理由>

反対 _____ 名
<理由>

- 2 「赤ちゃんポスト」の是非については分かれましたが、あなたが
(1) 「赤ちゃんポスト」に預けるのはどんな状況の時だと思いますか。（発表は、自分から左回り）

(2) 「赤ちゃんポスト」を運営するとしたら、「赤ちゃん」の受け入れについてどのようなことを考えて運営していこうと思いますか。（最初に当たらなかった人から右回り）

(3) その他意見や疑問はありませんか。

- 3 「赤ちゃんポスト」の在り方について、グループの意見をまとめます。
（1～2の意見を集約し、グループ内の人に口頭で確認する）

「赤ちゃんポスト」記録・発表用（グループ内の名簿番号が一番遅い人）

私たちのグループの発表をします。

記録者： 組 番：氏名

- 1 赤ちゃんポストの是非については、
賛成は_____人で、
賛成と答えた人の理由は

などでした。

- 反対は_____人で、
反対と答えた人の理由は

などでした。

- 2 「赤ちゃんポスト」に預ける場合の状況としては、

という意見が出ました。

- 3 「赤ちゃんポスト」を運営する側としての意見は、

という意見が出ました。

また、

などの意見や疑問点もありました。 以上です。

グループ構成(氏名) をここに記入する

「保育」事前アンケート

組 番 氏名

(1) 「命」からイメージすることは何ですか。箇条書きにしてみよう。(言葉・文章でも良い)

--

(2) 「生命尊重」とは、どういうことだと思いますか。

--

(3) 「人間愛」とはどのようなものだと思いますか。あなたがイメージすることを箇条書きにしてみよう。

--

(4) 親は子どもにとってどのような存在だと思いますか。そのように結論付けた理由も書いてみよう。

--

(5) 子は親にとってどのような存在だと思いますか。そのように結論付けた理由も書いてみよう。

--

(6) 人との関わりの中であなたが特に気にしていることは何ですか。

家族に対して：

家族以外の人に対して：

(7) 子どもに関する社会問題には、何がありますか。あなたの知っていることを箇条書きにしてみよう。

「保育」事後アンケート

組 番 氏名

※質問について、【 】内の1～4のうち当てはまるものを○で囲んでください。

1 「赤ちゃんポスト」の学習から、

(1) 「命」からイメージできることは変わりましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

今あなたが「命」からイメージすることを書いてください。

--

(2) 「生命尊重」について、あなたの考えに変化はありましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

今のあなたの考えを書いてください。

--

(3) 「人間愛」について、あなたの考えに変化はありましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

今のあなたの考えを書いてください。

--

(4) 親は子どもにとってどのような存在か、あなたの考えに変化はありましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

今のあなたの考えを書いてください。

--

(5) 子は親にとってどのような存在か、あなたの考えに変化はありましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

今のあなたの考えを書いてください。

--

2 グループでの話し合いについて

(1) 自分の意見を積極的に伝えることができましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

(2) 相手の意見をきちんと聞いて理解することができましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

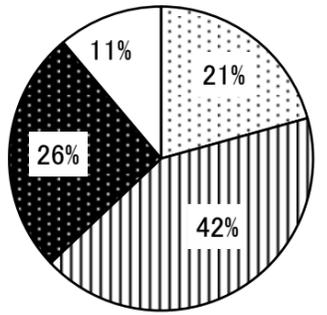
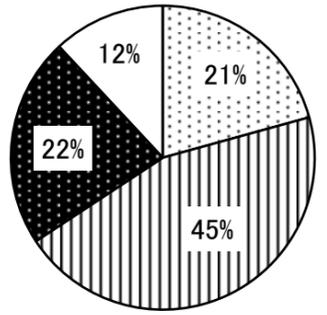
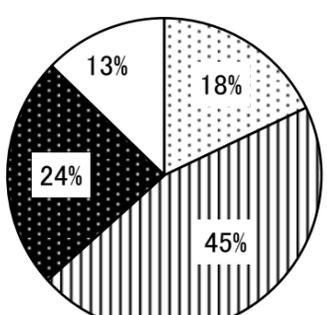
(3) 他の人と意見のやり取りをすることにより、自分の考えを深めることができましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

(4) 他の人と意見のやり取りをする場合、何が大切だと思いましたか。

--

【事前・事後アンケート集計結果】

		事後アンケート		1 「赤ちゃんポスト」の学習から	
		グラフ		心の変化	
アンケート項目	事前アンケート	1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない		高まったと答えた生徒の考え	変化がないと答えた生徒の考え
(1) 「命」からイメージできることは変わりましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・生きること・生きていること ・かけがえのない大切なもの、無くてはならない尊いもの ・1つしか無く守るべきもの ・いつかは消えるもの ・父母がくれたもの、続いていくもの ・人間、動物、植物、生きているものすべて ・子ども、赤ちゃん ・お金では買うことができないもの 		<ul style="list-style-type: none"> ・大切であるということに変わりはないけど、「育てる」側から考えると責任が必要になるものだった。 ・恵まれた環境にいるからこそ無駄にはできないものだと思う。 ・人と人をつなぐもので、何よりも大切。 ・親からの愛情 ・生きること ・ただ生きているだけではなく満たされている状態。 ・一つの命が大人になるまでの道のりは厳しいなと思いました。 ・何よりも大切なものと思っていましたが、それに加えて、皆で守っていくものと思うようになりました。 ・命が絶たれてしまう命があるということは考えたことはありましたが、「赤ちゃんポスト」を利用することで繋ぐ命があることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり命は大切。自分の命は自分で守る。自分の産んだ命も自分で守る。 ・大切なもの。それは変わらないと思う。でも命は自分だけのものではないと思う。 ・命があるから楽しいことや悲しいことを感じることができる。 ・一番大切なもの。 ・一生に一度、失ったら取り戻せない。言い方悪いけどたった1つの消耗品。 ・子どもも大人も命の重みは一緒なわけだから、産んでポイはいけないうし、簡単にみてはいけないうし。 	
(2) 「生命尊重」について、あなたの考えに変化がありましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・重視するもの、最優先されるもの ・命を軽く考えず、粗末にしないこと ・人権があること ・生きること、生きる権利 ・他者の命を大切にすること ・生まれたことに感謝し、心身ともに健康を維持すること 		<ul style="list-style-type: none"> ・尊重しようという考え方や、どんな時でも思いやって個々を大切にしていこうとする行動が大切だと思った。 ・今までよりももっと命は守られるべきものだと思うようになりました。 ・簡単な気持ちで命を放棄してはならない、大切にすべきものだと思う。 ・生命は子どものものであれ、おとなのものであれ平等に尊いものだと思います。 ・無駄な命は1つもない。 ・無勝手な親が子どもを産んで、その命を虐待とかで無くしてしまうのではなくて、せつかく生まれた命をもっと大切にすべき。 ・どんな事情があっても、命は捨ててはいけないうし、つなげて行かなくてはいけない。 ・命にはいろいろな可能性が有るから尊重すべき。 ・死なないための生命尊重だと思っていただけ、生きるために生命を尊重するのだと思いました。 ・生命が第一ということではなく、一つの命に対してよく考えなければならぬことだと思うようになりました。 ・生まれたくても生まれられなかった子もいるから自分の命は大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命尊重とはどこに住んでいる誰でも、平等な命の重さがあり、尊重すべき存在だと思う。 ・生命ははかない。はかないからこそ尊い。 ・何があっても人には手をあげてはいけないうし。 ・生まれたすべての生命はともにも尊いものだから、すべての生き物が自由を持ち、自分の為に生きれば良いと思う。そして、他の人の為に余裕ができたらサポートしてあげる。 ・自分の命も相手の命も、他の動植物の命も大切に思うこと。 ・命は大切であり、命が最優先である。ムダな命なんてない。 ・だれにも奪うことの許されないもの。 ・虐待やいじめ、自殺をしてはいけないうし。 ・尊重されるべきだと思うけど、自分の命も大切にすべき。比べられるものではない。 ・やっぱり命は大切にすることで、赤ちゃんとかまだ弱い立場の子たちを守っていかないとはいけないうし。 ・その命に対する思いやりや、生きるために必要なことを周りがサポートすること。 ・前よりもっと命を大切にしたいと思った。 	
(3) 「人間愛」について、あなたの考えに変化がありましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのつながり ・人を思いやること、優しくすること ・人を愛すること ・人を認め、わかり合うこと ・家族愛、親子愛、兄弟愛、自愛 ・人にしかできないこと 		<ul style="list-style-type: none"> ・人に愛を注いで接することは簡単そうに見えてとても難しい事だと思った。 ・人と人が協力し合い生まれるものであるが、そういう場合でない時も些細なことでも気遣う環境があることによって生まれるものもあることが分かった。 ・「赤ちゃんポスト」で子どもを引き取った夫婦みたいな人が人間愛にあふれた人だと思った。 ・実母でなくても、自分が息子のように愛情を注ぐことができる人は素晴らしいと思う。 ・子どもを見捨てる親の気はしれないと思っていたが、たくさん悩んでいるんだと思った。 ・育てたくても育てられない子どもを施設に預けるということも愛情の一つだと思う。 ・他人の愛に触れることで優しい気持ちになり、自分も愛を持って接したいと思う。 ・赤ちゃんを育てられない環境にあったときに、他の人が育てるといった所に人間愛を感じた。協力することが人間愛。 ・ポストに預ける人は、人間愛というものが無いと思う。 ・たとえ血が繋がってなくても、人はみんな家族になれると思った。 ・親子の愛や友人同士の思い合い、生きている人、死んでしまった人でも思い続けることだと思う。 ・人は誰かから愛されることで生きていることを実感できるのだと思った。 ・人を愛し育てていくことは、自分にとっても大切な事だと思う。 ・人間の間には、男女の愛、親子の愛、友人への愛など、形は違っても、想う強さはその愛も等しく強いものだった。 ・愛情があって育った人は、また誰かに愛情をあげられると思う。 ・人は必ず人を愛する訳ではないとおもうけど、人は無償で人を愛することもできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信じることが第一。 ・思いやりの心を持つことが大切。 ・愛の注ぎ方にはいろいろあると思った。 ・親や友達に愛情をもらったり、与えたりできるのは実はとても素晴らしいことだと思った。 ・子どもや大切な人の周りの環境を整えることも人間愛だと思う。 ・誰でも愛することができる人はなかなかいないと思いました。 ・日本は災害が多いからよく人間愛を感じる。 ・人は愛がなければ心も体も成長できないから、とても大切だと思う。 ・人間同士の仲間意識。 ・人間愛が生まれるかどうかは、その人が育ってきた環境により変化が出てくる。 ・あれば幸せ、無ければあまり幸せにならないと思う。 ・大切に思うこと。愛を感じる。これらの感情が生まれながら持っている人間として生きなければならない。 ・人に対して何かして助けてあげたいと思う気持ち。 ・親子、友人など、いろいろな関係があるけど、人と人との関わりには変わりないから大切にしていきたい。 	

事後アンケート		1 「赤ちゃんポスト」の学習から					
アンケート項目	事前アンケート	グラフ				心の変化	
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	高まったと答えた生徒の考え	変化がないと答えた生徒の考え
(4) 親は子どもにとってどのような存在か、あなたの考えに変化はありましたか。	<ul style="list-style-type: none"> 頼れる、必要な存在 生きるための手本であり、目指すもの 生活の世話をしてくれる人 絶対的な存在 理解者 尊敬する、信頼する、感謝する存在 					<ul style="list-style-type: none"> 自分を育ててくれた一番感謝しなくてはならない存在。 いろいろな責任を負っている。 憧れであったり、いつも自分の味方してくれるかけがえのない存在。 本当に大きな存在で、親がいるからこそ生きていられる。 子どもを愛してくれる存在。 虐待で殺してしまう親もいるし、すごく大事にする親もいる。だから、必要とされる親とっていい親がいなくて生きていけるような必要とされない親もいるのだと思う。 親は手本となり親によって子どもの性格などに影響が出ると思う。 子どもにとって世界の中心。 実の親でなくても愛情を注いでくれるのが本当の親。 親は子どもにとって正しい存在でもあるし、悪い存在にもなること。 親の愛情があるかないかで自分の人生が大きく変わる存在。どのように育てられたかで親への気持ちも変わる。 自分の生きる道を後押ししてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 無くてはならない存在、やっぱり大切だとわかった。 親は子どもの目標であり、手本である。親は重大な責任がある。 産み育ててくれたすばらしい存在。 今も前も親は唯一の存在で、いなくなったらすごく悲しむと思う。 親の影響を受けて育つと思うので、見本になる存在。 子どもが安心できる場所。 かけがえのない存在。 親が子に愛を注ぐことで子は人間として成長していけるのだと思う。 自分の成長を見守ってもらう存在。 今の自分があるのは両親がいてくれるからこそだから、本当に感謝したい。 生きていく上で必要な存在。
(5) 子は親にとってどのような存在か、あなたの考えに変化はありましたか。	<ul style="list-style-type: none"> 大切なかけがえのないもの 守るべきもの 宝物 生きがい 喜び、かわいい存在 					<ul style="list-style-type: none"> 自分で育て、成長していく姿が生きがいとなる存在。 一番の宝物。 自立するまで支える人。 自分の命よりも大切なもの。 守らないといけない存在だと思いましたが、それだけではなく、子どもが成長する上で良い環境を与える責任があると思いました。 本当の親でなくても、いてくれるだけでホッとする暖かいもの。 生きるための希望を与えてくれる人。 時に苦しみ、時に幸せにする存在。 自分の子であってもなくてもきちんと育てる義務があると思った。 大切な存在だと思っていたけど、苦しめる存在になる場合もあるのかなと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 可愛い責任も発生する。 自分の命より大切。命をかけて守るべき存在。 無くてはならない大切な存在。 子の成長を通して、感動させられる。親も子から何かを学んだりする存在。 子どもがいるから頑張れることもある。 実親にとっては宝物。血が繋がっているといまいと、引き取った人からすれば宝物だと思う。

「保育」事後アンケート 2 グループでの話し合いについて

	(1) 自分の意見を積極的に伝えることができましたか。	(2) 相手の意見をきちんと聞いて理解することができましたか。	(3) 他の人と意見のやり取りをすることにより、自分の考えを深めることができましたか。
1 そう思う			
2 ややそう思う			
3 あまりそう思わない			
4 そう思わない			

(4) 他の人と意見のやり取りをする場合、何が大切だと思いましたか。

- 互いの意見を否定せず尊重し、理解する
- 人の意見は最後までしっかり聞く
- 自分の意見をしっかり言う
- 積極的に話し合いに参加する
- 共通点を探す
- 人の意見をしっかり聞き、自分の意見との違いについて考える
- コミュニケーション能力
- 発言しやすい雰囲気

(6) 人との関わりの中であなたが特に気にしていることは何ですか	<p>①家族との関わりで気にしていること</p> <ul style="list-style-type: none"> 気を遣うことなく、本音が言える 感謝 助け合うなどの思いやり 心配をかけない。迷惑をかけない 家の中の役割に対し責任をもつこと 自分らしくあること あいさつをする <p>②家族以外の人との関わりで気にしていること</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉遣いや接し方 相手の気持ちを考える 思いやりをもって接する 笑顔で接する 自分の内面を見せない 相手の良いところを見つける 人にあった会話や雰囲気を作る あいさつ、お礼を言う 約束を守る
(7) 子どもに関する社会問題には、何がありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> 虐待 いじめ 育児放棄 少子化 待機児童 非行・犯罪 赤ちゃんポスト 児童就労